令和８年度

こども未来学科

シラバス

西日本教育医療専門学校

別表第4　こども未来学科（夜間部）

区分	授業内容(科目名)	履修時数				履修単位
		1年	2年	3年	計	
総合科目	憲法（T)	30			30	2
	健康科学(T)	15			15	1
	スポーツ（実技）(S)1～2年	15			15	1
	情報リテラシーと処理技術(TS)	30			30	2
	英語コミュニケーション(T)	30			30	2
教科専門科目	こども家庭福祉(T)	30			30	2
	社会的養護Ⅰ(T)	30			30	2
	保育原理(T)	30			30	2
	こどもの発達と家庭支援(T)	30			30	2
	こどもと造形（S)	15			15	1
	造形表現論(T)		15		15	1
	音楽表現論(T)		15		15	1
	社会福祉論(T)		30		30	2
	人間関係論(T)		15		15	1
	言葉とこどもの文化(T)		15		15	1
	こどもの食と栄養（TS)		30		30	2
	障害児保育(TS)		30		30	2
	こどもの保健(T)		30		30	2
	表現とこどもの運動(T)		15		15	1
	こどもの健康と安全（S)		15		15	1
	こども家庭支援論(T)		30		30	2
	子育て支援（S)			15	15	1
教職専門科目	教育原理(T)	30			30	2
	教育心理学（TS)	30			30	2
	発達心理学(T)	30			30	2
	こどもの指導法「人間関係」(S)	15			15	1
	こどもの指導法「言葉」(S)	15			15	1
	こどもの指導法「リズム表現」(S)	15			15	1
	乳幼児保育Ⅰ(T)	30			30	2
	保育内容総論(T)	15			15	1
	こどもの理解と援助（S)	15			15	1
	教育課程論（T)		30		30	2
	教職論(T)		30		30	2
	教育方法論(T)		30		30	2
	こどもの指導法「健康」（S)		15		15	1
	こどもの指導法「環境」（S)		15		15	1
	こどもの指導法「造形表現」（S)		15		15	1
	こどもの指導法「言語表現」（S)		15		15	1
	社会的養護Ⅱ（S)	15			15	1
	こどもの理解と相談支援(T)			30	30	2
	特別支援教育(T)			15	15	1
	保育実習Ⅰ（保育所・施設）　＊1	80	80		160	4
	保育実習指導Ⅰ（TS）＊2	30			30	2
	保育実習Ⅱ(選択)　＊3		80		80	2
	保育実習Ⅲ(選択)　＊4					
	保育実習指導Ⅱ(T)(選択)　＊5		15		15	1
	保育実習指導Ⅲ(T)(選択)　＊6					
	教育実習事前・事後指導（S)		10	5	15	1
	教育実習			160	160	4
	保育・教職実践演習(幼稚園)（TS)			30	30	2
	乳幼児保育Ⅱ（S)			15	15	1
	こどもの指導法「音楽表現」(S)1～3年			30	30	2
学校設定科目	ピアノ実技Ⅰ(T)	25			25	1
	ピアノ実技Ⅱ(T)		30		30	2
	ピアノ実技Ⅲ(T)			60	60	4
	パソコン実技Ⅰ(T)		15		15	1
	パソコン実技Ⅱ(T)			30	30	2
	保育造形演習Ⅰ（T)		15		15	1
	保育造形演習Ⅱ（T)			45	45	3
	保育・教職実践特別演習（T)			75	75	5
	教育実習指導（T)			45	45	3
	就職対策（T)			45	45	3
各学年年間合計		600	635	600	1835	105
合計						

◎全ての科目を履修するものとする。

＊　T:通信授業　S:スクーリング　TS：通信授業とスクーリング

＊1　2つの実習を実施　保育所実習は1年次実施、施設実習は2年次実施のため2年次に単位修得

＊2　事前レポート・スクーリングは1年次実施、事後レポート後2年次に単位修得

＊3・＊4　実習はいずれか一つを選択　2年次年度末実習実施、3年次に単位修得

＊5・＊6　いずれか一つを選択　事前レポートは2年次実施、事後レポート後3年次に単位修得

令和　8　　年度　講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分		総合科目
科目名	憲法(T)			担当講師		中嶋　直木
対象学年	1　年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	「憲法」(配本テキスト)					
学習目標	⑴日本国憲法が採用・具体化している「立憲主義」の基本原理と仕組みについて理解する。 ⑵「立憲主義」の採用・具体化が不十分であった明治憲法への反省から導入された規定・制度、すなわち、日本国憲法に特徴的な規定・制度について、理解する。 ⑶議会や国民の多数派による少数派への迫害などが問題になっている現代において、立憲主義の課題は、専制政治を防ぎ、個人の人権を確保する「立憲民主主義」の実現にあることを理解する。					
成績評価の方法と基準	①ルーブリック評価を用いて行う。 ・学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により評価する。 ・科目の成績評価:科目試験の結果により判定し評価する。 ②評価は5段階で行う。					
講義回数	学習内容					
第1回	＜憲法とは何か＞ 憲法の意味、憲法の分類、立憲主義、近代憲法、現代憲法など					
第2回	＜⑴日本憲法の歴史、⑵日本国憲法の構造と基本原理＞ ⑴明治憲法の性格、日本国憲法の制定、日本国憲法制定の法理、 ⑵前文の意味・構成、本文の構成、日本国憲法の基本原理:①国民主権、②基本的人権の尊重、③平和主義など					
第3回	＜⑴象徴天皇制、⑵平和主義＞ ⑴天皇の地位、皇位の継承、天皇の権能 ⑵日本国憲法の平和主義、戦争の放棄、戦力の不保持、交戦権の否認など					
第4回	＜⑴基本的人権の原理、⑵基本的人権の享有主体と限界＞ ⑴人権宣言の歴史、人権の観念、人権尊重の原理、新しい人権 ⑵人権の享有主体:国民、未成年者、天皇・皇族、外国人などが享有する人権、人権と「公共の福祉」、私人間における人権の保障など					
第5回	＜生命・自由・幸福追求権＞ 個人の尊重と幸福追求権、幸福追求権の内容、幸福追求権の射程など					
第6回	＜法の下の平等＞ 平等の意味、日本国憲法における平等原則、不合理な差別の禁止(平等原則違反の具体的事例)など					
第7回	＜⑴思想・良心の自由、⑵信教の自由＞ ⑴思想・良心の自由の意味、思想・良心の自由の保障態様 ⑵信教の自由の内容、国家と宗教の分離(政教分離)の原則(政教分離の限界、政教分離に関する判例)など					

第8回	＜⑴学問の自由、⑵表現の自由＞ ⑴学問の自由の内容、大学の自治 ⑵表現の自由の規制、表現の自由の形態：①報道・取材の自由、②性的表現の自由、③名誉棄損表現、④知る権利・アクセス権など、集会・結社の自由と限界、通信の秘密の内容と限界など
第9回	＜身体的自由権（人身の自由）＞ 奴隷的拘束・苦役からの自由、適正手続の保障、被疑者の権利、刑事被告人の権利、拷問および残虐刑の禁止など
第10回	＜経済的自由権＞ 職業選択の自由、居住・移転の自由、外国移住・国籍離脱の自由、財産権など
第11回	＜社会権＞ 憲法25条、生存権の法的性格、生存権の内容、環境権の根拠、教育を受ける権利の意義（「子どもの学習権」説、教育権の所在）、教育を受ける権利の法的性格・内容、労働権の内容、労働基準の法定、児童酷使の禁止、労働基本権の内容と限界など
第12回	＜⑴国務請求権、⑵参政権、⑶国民の義務＞ ⑴請願権、裁判を受ける権利、国家賠償請求権、刑事補償請求権 ⑵公務員の選定・罷免権、⑶教育を受けさせる義務、勤労の義務、納税の義務など
第13回	＜⑴立憲民主制の原理と制度、⑵国会と立法権＞ ⑴日本国憲法における権力分立、国民主権と代表民主制、選挙権の意味と法的性格、日本国憲法と政党 ⑵国会と立法権、国会の地位と性格、二院制、国会の権能、議院の権能など
第14回	＜⑴内閣と行政権、⑵裁判所と司法権＞ ⑴内閣の地位と性格、議院内閣制、内閣の権能、内閣の責任 ⑵司法権の概念・範囲、裁判所の構成と権能、司法権の独立、違憲審査制など
第15回	＜⑴財政、⑵地方自治、⑶憲法改正＞ ⑴財政民主主義、租税法律主義、予算と決算 ⑵地方自治の本旨、地方公共団体の権能、住民自治 ⑶憲法改正の手続、日本国憲法改正の限界など

令和 8　　年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分		総合科目
科目名	健康科学(T)			担当講師		諸隈　淳子
対象学年	1　年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	「健康科学」(配本テキスト)					
学習目標	①健康は基本的には自分で管理・守るべきものである。近年、健康に関する情報が多く、個人の価値観や健康のとらえ方も多様化している。健康の3要素とストレス対処法について学ぶ。 ②健康科学のテキストにより科学的健康・体力づくりの方法を学ぶ。					
成績評価の方法と基準	①ルーブリック評価を用いて行う。 ・学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により評価する。 ・科目の成績評価:科目試験の結果により判定し評価する。 ②評価は5段階で行う。					
講義回数	学習内容					
第1回	健康な生活設計 自己の健康管理について、喫煙・飲酒が及ぼす身体影響を考える					
第2回	運動の基礎理論 利便化された現代人の運動不足と健康管理について学ぶ					
第3回	運動生理学 運動が身体に及ぼす影響、運動と呼吸、運動と筋肉、運動と神経についての知識を高める					
第4回	救命救急 救急処置についての知識と対処法、AED の取扱い方を学ぶ					
第5回	運動処方① 運動処方の内容について学ぶとともに、運動場面で多発している熱中症の対処法を学ぶ					
第6回	運動処方② ウォーミングアップとクーリングダウンについて学ぶ					
第7回	健康日本21「健康日本21」から自己の健康への課題を探る					
第8回	生活と運動 自己のライフスタイルでの健康・体力づくりを学ぶ					

令和　8　　年度　講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分		総合科目
科目名	スポーツ(実技)(S)			担当講師		諸隈　淳子
対象学年	1　年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	実技					
使用教科書・使用教材	「健康科学」(配本テキスト)					
学習目標	①生涯にわたって運動やスポーツに親しみ、自ら実践できる能力を身に付けることを目的とし、各種目に関する知識や技能を身に付け、健康と安全に留意しながら個人的・集団的スポーツを楽しむとともに、将来の指導者として作戦の立て方や審判の仕方、競技の運営方法について学ぶ。 ②各種のスポーツを仲間とともに楽しみ、技能面の上達及び自己の体力・健康の保持・増進を図りニュースポーツも体験・理解する。					
成績評価の方法と基準	①ルーブリック評価を用いて行う。 ・学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により評価する。 ・科目の成績評価:科目試験の結果により判定し評価する。 スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果などを総合的に評価する。					
講義回数	学習内容					
第1回	ガイダンス(授業の見通し・個人目標の設定等)					
第2回	準備運動、ストレッチ考案　各種ランニング及び体つくり運動　創作ダンス					
第3回	バレーボール①基本練習					
第4回	バレーボール②ゲーム・審判					
第5回	屋内サッカー　基本練習・ゲーム					
第6回	バドミントン①基本練習・シングルスのゲーム					
第7回	バドミントン②ダブルスのゲーム					
第8回	ドッチボール・ソフトボール(運営方法及びゲーム)					
第9回	バスケットボール①基本練習・応用練習					
第10回	バスケットボール②ゲーム・審判					
第11回	卓球①基本練習					
第12回	卓球②シングルスのゲーム					
第13回	卓球③ダブルスのゲーム					
第14回	ニュースポーツを学ぶ(テイーボールなど)創作ダンス発表会					
第15回	ウオーキングとその効果について　授業の振り返り、今後に向けて					

令和 8　　年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分		総合科目
科目名	情報リテラシーと処理技術(TS)			担当講師		木下 幹朗
対象学年	1 年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	「情報リテラシーと処理技術」(配本テキスト)「情報セキュリティ10大脅威2023」(独立行政法人情報処理推進機構2023.10.31現在) https://www.ipa.go.jp/security/10threats/ps6vr70000009r2f-att/kaisetsu_2023.pdf 「情報セキュリティ10大脅威知っておきたい用語や仕組み」(独立行政法人情報処理推進機構2023.10.31現在) https://www.ipa.go.jp/files/000089490.pdf 「標準教科書改訂新版よくわかる情報リテラシー」岡本敏雄監修(技術評論社)(ISBN:9784774191423) 「キーワードで学ぶ最新情報トピックス2023」(日経BP)(ISBN:978-4296070565) 学生					
学習目標	情報システムの発展と役割について理解を深め、これからの情報化社会を生きる上で必要となる基礎知識と技術を身に付けます。					
成績評価の方法と基準	【通信授業】学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する (評価はルーブリック評価を用い行う) 科目の成績評価:科目試験の結果により判定し評価する (評価はルーブリック評価を用い行う) 【面接授業】科目の成績評価:スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する(評価はルーブリック評価を用い行う) ※科目試験50%、スクーリング50%の平均により成績評価を行う					

講義回数	学習内容
第1回	情報化社会
第2回	コンピュータの発展
第3回	ハードウェア
第4回	ソフトウェア
第5回	情報ネットワーク
第6回	インターネット
第7回	情報システムの課題
第8回	Windows の基本操作
第9回	文書作成の基本①(基本操作・書式設定)
第10回	文書作成の基本②(図形・表・ページ設定)
第11回	表計算の基本①(基本操作・書式設定)文書作成の基本
第12回	表計算の基本②(計算式・関数・グラフ機能)
第13回	プレゼンテーション
第14回	デジタルシティズンシップ・情報セキュリティ
第15回	教育現場におけるICT の活用と展望

令和 8　　年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分		総合科目
科目名	英語コミュニケーション(T)			担当講師		三浦 弘文
対象学年	1 年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	「英語コミュニケーション」(配本テキスト)					
学習目標	①英語の基礎を理解するよう努力する。 ②英語の基礎に自信がある人は、Chapter2 に進み、英語の理解を深める。 ③Chapter3 では、保育の現場でのさまざまな生活場面を題材にした英文や英語表現の学習を通して、保育者と子どもや保護者とのコミュニケーションに使われる英語表現や連絡事項の書き方などを学習する。					
成績評価の方法と基準	①ルーブリック評価を用いて行う。 ・学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により評価する。 ・科目の成績評価:科目試験の結果により判定し評価する。 ②評価は5段階で行う。					
講義回数	学習内容					
第1回	Chapter1　英語の文法(動詞、形容詞・副詞)					
第2回	Chapter1　英語の文法(比較、代名詞、疑問詞)					
第3回	Chapter1　英語の文法(進行形、完了形、受動態)					
第4回	Chapter2　英語の基礎構文(5文型)					
第5回	Chapter2　英語の基礎構文(修飾語句)					
第6回	Chapter2　英語の基礎構文(接続詞、仮定法)					
第7回	Chapter3　入園準備					
第8回	Chapter3　登園・降園					
第9回	Chapter3　室内遊び					
第10回	Chapter3　外遊び					
第11回	Chapter3　健康・病気・けが					
第12回	Chapter3　運動・お散歩					
第13回	Chapter3　食事					
第14回	Chapter3　工作・お絵かき					
第15回	Chapter3　おたより・行事					

令和　8　　年度　講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科	科目区分	教科専門科目
科目名	こども家庭福祉(T)	担当講師	守田　幸代

対象学年	1　年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	

講義方法	講義
使用教科書・使用教材	「こども家庭福祉」(配本テキスト) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)
学習目標	望ましい保育者となるために、現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解するとともに、 制度や関係機関の実施体制について学びを深めていく。併せて、子どもの人権に目を向けながら子ども家庭福祉の現 状と課題についての考察を深めることで、今後の展望について見極める機会とする。
成績評価の方法と基準	①ルーブリック評価を用いて行う。 ・学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により評価する。 ・科目の成績評価:科目試験の結果により判定し評価する。 ②評価は5段階で行う。

講義回数	学習内容
第1回	現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷
第2回	現代社会と子ども家庭福祉:少子高齢化、家族形態の変化、相対的貧困、食文化
第3回	子どもの権利－子ども観、人権擁護の歴史的変遷、児童の権利に関する条約
第4回	子どもの人権擁護と現代社会における課題
第5回	子ども家庭福祉の制度と法体系および実施体系
第6回	児童福祉施設と子ども家庭福祉の専門職・実施者
第7回	少子化と地域子育て支援
第8回	母子保健と子どもの健全育成
第9回	多様な保育ニーズへの対応
第10回	子ども虐待・DV(ドメスティックバイオレンス)とその防止
第11回	社会的養護
第12回	障害のある子どもへの対応
第13回	少年非行等への対応
第14回	貧困家庭、ひとり親家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応
第15回	子ども家庭福祉の動向と展望

令和 8　　年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分		教科専門科目
科目名	社会的養護Ⅰ(T)			担当講師		宮崎　哲博
対象学年	1　年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	「社会的養護Ⅰ」(配本テキスト) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)					
学習目標	①現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。 ②子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 ③社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 ④社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。 ⑤社会的養護の現状と課題について理解する。					
成績評価の方法と基準	①ルーブリック評価を用いて行う。 ・学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により評価する。 ・科目の成績評価:科目試験の結果により判定し評価する。 ②評価は5段階で行う。					
講義回数	学習内容					
第1回	社会的養護の理念と概念					
第2回	社会的養護の歴史的変遷					
第3回	子どもの人権擁護と社会的養護					
第4回	社会的養護の基本原則					
第5回	社会的養護における保育士等の倫理と責任					
第6回	社会的養護の制度と法体系					
第7回	社会的養護の仕組みと実施体系					
第8回	社会的養護の対象					
第9回	家庭養護と施設養護					
第10回	社会的養護に関わる専門職					
第11回	社会的養護に関する社会的状況					
第12回	施設等の運営管理					
第13回	被措置児童等の虐待防止					
第14回	社会的養護と地域福祉					
第15回	保育現場における社会的養護の現状と課題					

令和 8　　年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分		教科専門科目
科目名	保育原理(T)			担当講師		濱田　由美子
対象学年	1　年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	・保育原理 （配本テキスト） ・「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)（フレーベル館）					
学習目標	保育原理では、保育・幼児教育に携わる者に求められる保育に関する基本的な知識を学び、保育者としての視点を保育原理では、子どもをとりまく環境を踏まえながら、「保育とは何か」を広い視野から捉えて保育全般を学ぶ。具体的には、保育の意義と目的、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育の基本について理解し、保育者としての資質の在り方に目を向け、保育におけるさまざまな課題に関しての認識を深める。					
成績評価の方法と基準	①ルーブリック評価を用いて行う。 ・学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により評価する。 ・科目の成績評価:科目試験の結果により判定し評価する。 ②評価は5段階で行う。					

講義回数	学習内容
第1回	保育とは何か⑴ 保育の意義と目的
第2回	保育とは何か⑵ ①子どもの最善の利益を考慮した保育 ②保育の社会的意義
第3回	保育とは何か⑶ ①家庭との連携 ②地域との連携
第4回	保育所保育指針における保育の基本⑴ ①保育の目標と方法 ②養護と教育の一体性
第5回	保育所保育指針における保育の基本⑵ ①環境による保育 ②発達に応じた保育
第6回	保育所保育指針における保育の基本⑶ ①保育の計画と評価 ②子どもの健康と安全
第7回	保育所保育指針における保育の基本⑷ ①子育て支援 ②保育士の専門性
第8回	保育の質を高めるための方法⑴ 望ましい未来をつくり出す力の基礎を培う
第9回	保育の質を高めるための方法⑵ 生活と遊びを通して総合的に行う保育
第10回	保育の質を高めるための方法⑶ 保育における個と集団への配慮
第11回	保育の思想と歴史的変遷⑴ 欧米の保育思想の展開と保育施設の発展
第12回	保育の思想と歴史的変遷⑵ わが国における保育の歴史的変遷
第13回	保育の制度⑴ ①保育所について ②幼稚園について
第14回	保育の制度⑵ ①認定こども園について ②家庭的保育事業について
第15回	保育の現状と課題 ①日本の保育の現状と課題 ②外国の保育の現状と課題

令和 8　　年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分		教科専門科目
科目名	こどもの発達と家庭支援(T)			担当講師		濱田　由美子
対象学年	1　年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	『こどもの発達と家庭支援』室谷雅美 『発達心理学』渡辺隼人・岸靖亮・渡辺舞 『こども家庭支援論』前川洋子					
学習目標	①生涯発達の観点から発達のプロセスや初期発達の重要性について理解し、保育との関連性について考え、子どもの発達段階ごとの特徴と各期の課題と危機について理解する。 ②子育て家庭に関する現状と課題を把握し、子育てを取り巻く社会的状況と課題について理解する。					
成績評価の方法と基準	①ルーブリック評価を用いて行う。 ・学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により評価する。 ・科目の成績評価:科目試験の結果により判定し評価する。					

講義回数	学習内容
第1回	生涯発達発達とは遺伝と環境
第2回	愛着関係と愛着行動
第3回	発達課題をふまえライフサイクル理論
第4回	各段階における発達上の特性と成育をめぐる課題
第5回	乳幼児期から学童期前期にかけての発達
第6回	学童期後期から青年期にかけての発達
第7回	成人期・老年期における発達
第8回	家族・家庭の意義と機能
第9回	親子関係・家族関係の理解
第10回	子育てを取り巻く社会的状況
第11回	ライフコースと仕事・子育て
第12回	多様な家庭とその理解
第13回	特別な配慮を要する家庭
第14回	子どもの育ちの現状と背景
第15回	子どもの生活・生育環境とその影響心の健康に関わる問題

令和 8　　年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分		教科専門科目
科目名	こどもと造形(S)			担当講師		豊岡短期大学講師
対象学年	1　年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義	講義　演習					
使用教科書・使用教材	「造形表現論」(配本テキスト) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 市販の造形に関する書籍等					
学習目標	①保育の内容を理解し、造形の基本的な知識と特に手の動き・感性・思考が一体となった実践学習を通して造形感覚の基礎的陶冶を図る。 ②乳幼児を含めたこどもの造形の指導・援助者として、造形教育の中で取り扱う教材に必要な知識や技能の習得する。 ③創意工夫しながら製作を展開し、平面及び立体における造形教育に必要となる知識や技術を身につける。					
成績評価の方法と基準	①ルーブリック評価を用いて行う。 ・学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により評価する。 ・科目の成績評価:科目試験の結果により判定し評価する。 ②評価は5段階で行う。					
講義回数	学習内容					
第1回	幼児造形教育の重要性と研究の視点について					
第2回	幼児造形(表現)の特徴・領域・道筋について					
第3回	えがく領域に伴う製作Ⅰ(えがく活動における指導・援助と実際)					
第4回	つくる領域に伴う製作Ⅱ(つくる活動における指導・援助と実際)					
第5回	造形あそびの領域に伴う製作Ⅲ(造形遊びにおける指導・援助と実際)					
第6回	作品の研究及び発表					
第7回	幼児造形教育の課題について					
第8回	まとめ					

令和8 年度　講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分		教科専門科目
科目名	造形表現論(T)			担当講師		薮田　秀子
対象学年	2　年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	「造形表現論」(配本テキスト) 「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)					
学習目標	①幼児造形の指導・援助者として形や色等の造形の理論をもとに、えがく表現、つくる表現そして造形あそびの領域と技法について、また、それに伴った材料、用具の特性と利用について理解していく。 ②美術の歴史的展開の概説及び乳幼児造形教育の課題を学ぶ。					
成績評価の方法と基準	①ルーブリック評価を用いて行う。 ・学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により評価する。 ・科目の成績評価:科目試験の結果により判定し評価する。 ②評価は5段階で行う。					
講義回数	学習内容					
第1回	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園 教育・保育要領における「表現」領域を踏まえた 幼児造形表現のねらい					
第2回	こどもの発達段階とえがく、つくる、造形あそびの特徴と理解					
第3回	こどもの発達段階の基本的な考え方に基づく、えがく、つくる、造形あそびの指導、援助、評価					
第4回	えがく活動における形態・色彩の理論、絵画技法、製作、材料・用具を踏まえた指導援助、評価					
第5回	つくる活動における技法と活用、素材(廃材)、製作、材料・用具を踏まえた指導援助、評価					
第6回	造形あそびにおける各種表現技法、製作、材料・用具を踏まえた指導援助、評価					
第7回	実践的な指導法の学習と情報機器及び教材の活用					
第8回	美術の歴史的展開の概説及び乳幼児造形教育の意義と課題と展望、全体のまとめ					

令和 8 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分		教科専門科目
科目名	音楽表現論(T)			担当講師		水黒 博子
対象学年	2 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義 実技					
使用教科書・使用教材	「音楽表現論」(配本テキスト) 「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)					
学習目標	領域「表現」における音楽表現に視点を置き、子どもが遊びや生活の中で表出させる素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる保育者としての感性を養います。また、子どもが表現する事の楽しさを見い出す過程を理解し、子どもの豊かな感性や表現する力、想像力を育むための具体的指導法、そして音楽的知識を身に付けます。さらには家庭及び小学校の学びへの接続を理解し、その具体的な方法を修得します。					
成績評価の方法と基準	①ルーブリック評価を用いて行う。 ・学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により評価する。 ・科目の成績評価:科目試験の結果により判定し評価する。 ②評価は5段階で行う。					
講義回数	学習内容					
第1回	感性と表現の領域「表現」の理解 感性と表現の領域「表現」の基礎知識					
第2回	こどもを取り巻く音に対する感性と表現 自然の音や生活の音への気づきと感性を育む保育					
第3回	日本のこどもの歌の理解 童謡・わらべうた・あそびうた					
第4回	感性と表現の領域「表現」と他の領域との関連 領域「健康」「人間関係」「環境」「言葉」と関連した音楽表現					
第5回	こどもの音楽表現を育む保育の実践 幼児用楽器や手作り楽器を用いた音楽表現活動					
第6回	音楽を用いたこどもの表現活動の指導1 うたう活動・楽器あそびなど表現活動における指導案の作					
第7回	音楽を用いたこどもの表現活動の指導2 うたう活動・楽器あそびなどの模擬保育の実際					
第8回	保育の可視化による家庭との連携、小学校教育への連続性 ポートフォリオなどを用いた保育の可視化、ICT の活用					

令和 8 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分		教科専門科目
科目名	社会福祉論(T)			担当講師		宮崎 哲博
対象学年	2 年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	「社会福祉論」(配本テキスト) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)					
学習目標	保育者の視点から、現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点、制度、援助方法などについて学ぶ。					
成績評価の方法と基準	①ルーブリック評価を用いて行う。 ・学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により評価する。 ・科目の成績評価:科目試験の結果により判定し評価する。 ②評価は5段階で行う。					
講義回数	学習内容					
第1回	社会福祉の理念…社会福祉とは、基本的人権・生存権、福祉政策					
第2回	社会福祉の歴史的変遷…欧米・日本の歴史					
第3回	子ども家庭支援と社会福祉…少子化対策と子育て支援					
第4回	社会福祉の制度と法体系…社会福祉六法と社会福祉法					
第5回	社会福祉行財政と実施機関…国・地方等の機関と福祉財政					
第6回	社会福祉施設と社会福祉の専門職…社会福祉法に基づく施設、専門職と倫理					
第7回	社会保障…憲法25条と生活保護、各福祉手当等					
第8回	相談援助の理論…発展過程とバイステックの7原則					
第9回	相談援助の意義と機能…相談援助と社会資源、援助者の役割					
第10回	相談援助の対象と過程…社会福祉の諸問題とその援助展開					
第11回	相談援助の方法と技術…ソーシャルワークアプローチ他、面接と記録の技術					
第12回	利用者保護の仕組み…個人情報保護・第三者評価・成年後見制度・子どもの権利擁護					
第13回	これかの福祉動向の課題…少子高齢化と子育て支援					
第14回	共生社会・在宅福祉…地域共生社会の実現と地域福祉の推進					
第15回	諸外国の動向…世界の福祉政策から学ぶ					

令和 8 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分		教科専門科目
科目名	人間関係論(T)			担当講師		石原 正三
対象学年	2 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	「人間関係論」(配本テキスト) 「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)					
学習目標	①現代のこどもの人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、幼児教育・保育で保障すべき教育内容に関する知識を身につける。 ②こどもを取り巻く他者との関係、集団との関係から、こどもの人間関係を考察し、乳幼児が人との関わりを通じて育つことを理解する。					
成績評価の方法と基準	①ルーブリック評価を用いて行う。 ・学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により評価する。 ・科目の成績評価:科目試験の結果により判定し評価する。 ②評価は5段階で行う。					
講義回数	学習内容					
第1回	領域「人間関係」 ・ねらいと内容 ・領域の相補性(保育活動の総合性とは)					
第2回	人間関係と取り巻く社会環境① ・少子高齢化 ・家族の変化					
第3回	人間関係と取り巻く社会環境② ・身近な環境の変容 ・メディアの変化					
第4回	人間関係をつむぐこどもの発達 ・規範意識と道徳性の芽生え(育ち) ・ルール、決まり事の意味と意義					
第5回	人間関係をつむぐこどもの発達 ・自立心、協同性の芽生え(育ち) ・自己発揮と自己抑制の芽生え(育ち)					
第6回	人間関係とこどもの遊び ・遊びの中で育つ乳児の人間関係 ・遊びの中で育つ幼児の人間関係					
第7回	人間関係とこどもの生活 ・家庭とのかかわりとこどもの発達 ・地域とのかかわりとこどもの発達					
第8回	今日的な人間関係の課題(多様な文化のこどもと気に留めたいこども)					

令和 8 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分		教科専門科目
科目名	言葉とこどもの文化(T)			担当講師		守田 幸代
対象学年	2 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	「言葉とこどもの文化」(配本テキスト) 「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)					
学習目標	①言葉の機能を理解し、絵本・紙芝居・おはなし等、子どもが言葉を育むことに役立つ言語教材である児童文化財への専門的知識を深める。 ②児童文化財の研究をとおして、その利用の仕方について理解する。 ③学童期へ繋がる言葉について理解を深める。					
成績評価の方法と基準	①ルーブリック評価を用いて行う。 ・学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により評価する。 ・科目の成績評価:科目試験の結果により判定し評価する。 ②評価は5段階で行う。					
講義回数	学習内容					
第1回	ことばの機能と言葉の発達 人間とことば、幼児とことば 乳幼児期のことばの発達と保育者の役割					
第2回	領域〈言葉〉のねらい及び内容 保育所保育指針 幼稚園教育要領					
第3回	ことばを育てる児童文化財① 児童文化財とは 絵本					
第4回	ことばを育てる児童文化財② 紙芝居 おはなし					
第5回	ことばを育てる児童文化財③ ペープサート シアター(パネルシアター・エプロンシアターなど)					
第6回	ことばを育てる児童文化財④ ことばに対する感覚を養う児童文化財 わらべうたあそび、ことばあそび					
第7回	ことばを育む教材 ことばを育む教材の範囲 ことばを育む教材研究					
第8回	保幼小連携について					

令和 8 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分		教科専門科目
科目名	こどもの食と栄養(TS)			担当講師		成瀬 暁子
対象学年	2 年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義 実習					
使用教科書・使用教材	・「子どもの食と栄養」(配本テキスト) ・「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)					
学習目標	ヒトが動物としてまた、人間らしく生きていくために何をどのように食べるべきなのかという基本を理解する。その上で、それを暮らしの中にどのような具体的な形で、こどもたちに伝えていくのかということをしっかりと理解し考え、身に付ける。					
成績評価の方法と基準	①ルーブリック評価を用いて行う。 ・学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により評価する。 ・科目の成績評価:科目試験の結果により判定し評価する。 ②評価は5段階で行う。					
講義回数	学習内容					
第1回	栄養の基本的概念と栄養素についての理解					
第2回	食事摂取基準・献立作成及び食品についての理解					
第3回	ライフステージ毎のこどもの発育発達と食生活についての理解					
第4回	こどもの食生活の現状と課題についての理解					
第5回	食育実践のための基礎知識					
第6回	保育所食育指針および食育基本法の理解と実践のための計画評価環境整備					
第7回	特別な配慮を要するこどもへの対応					
第8回	栄養の基本的概念と栄養素についての理解					
第9回	食事摂取基準・献立作成及び食品についての理解					
第10回	こどもの発育・発達と食生活1)離乳期					
第11回	こどもの発育・発達と食生活2)乳・幼児期					
第12回	こどもの発育・発達と食生活3)学童・思春期					
第13回	「楽しく食べるこどもに」の実践のための食育の基本と内容					
第14回	食育の実践のための基本的知識の理解と実践法					
第15回	特別な配慮を要するこどもへの支援					

令和 8 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分		教科専門科目
科目名	障害児保育(TS)			担当講師		石原正三・山田裕一
対象学年	2 年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	「障害児保育」(配本テキスト) 「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)					
学習目標	1. 障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について理解する 2. 障害個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する 3. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する 4. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する 5. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する					
成績評価の方法と基準	①ルーブリック評価を用いて行う。 ・学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により評価する。 ・科目の成績評価:科目試験の結果により判定し評価する。 ②評価は5段階で行う。					
講義回数	学習内容					
第1回	障害の概念 「障害」の概念と障害児保育の歴史的変遷					
第2回	障害のある子どもとの統合保育と地域社会への参加					
第3回	差別解消と合理的配慮					
第4回	身体障害児の理解と支援					
第5回	知的、発達障害児の理解と支援					
第6回	その他の障害児の理解と支援					
第7回	支援体制の構築 (職員間、家族、地域社会、子ども同士					
第8回	統合保育の活動					
第9回	障害児保育の実際(身体障害児)					
第10回	障害児保育の実際(知的障害児)					
第11回	障害児保育の実際(発達障害児・その他)					
第12回	障害児保育の健康と安全					
第13回	支援体制づくりのために					
第14回	障害児の支援計画					
第15回	障害児保育の現状と課題					

令和 8 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科	科目区分	教科専門科目
科目名	こどもの保健(T)	担当講師	谷尾 真理子

対象学年	2 年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	

講義方法	講義
使用教科書・使用教材	「こどもの保健」(配本テキスト) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)
学習目標	①子どもの身体的発育・発達段階を理解し、保育実践に活かす。 ②子どもを取り巻く多様な環境を理解し、他者との連携を取りながら保育を行うことができる。
成績評価の方法と基準	①ルーブリック評価を用いて行う。 ・学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により評価する。 ・科目の成績評価:科目試験の結果により判定し評価する。 ②評価は5段階で行う。
講義回数	学習内容
第1回	子どもの保健活動の意義と目的
第2回	健康の概念と健康指標
第3回	現代社会における子どもの健康に関する現状と課題
第4回	地域における保健活動と児童虐待防止
第5回	子どもの身体発育と保健
第6回	子どもの生理機能の発達と保健
第7回	子どもの運動機能・精神機能の発達と保健
第8回	子どもの健康状態の把握・健康状態の観察、発育発達の把握、健康診断
第9回	子どもの疾病の特徴①・子どもの病気の特徴、先天異常、感染症
第10回	子どもの疾病の特徴②・呼吸器の病気、循環器の病気、消化器の病気
第11回	子どもの疾病の特徴③・泌尿器・生殖器の病気、中枢神経系の病気
第12回	アレルギーの病気、整形外科(骨、筋肉系)
第13回	子どもの疾病の予防と適切な対応①・学校保健安全法で定める疾患
第14回	子どもの疾病の予防と適切な対応②・予防接種、子どもの疾病への国の対応
第15回	学習のまとめ(学生自身の振り返り)

令和 8 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科	科目区分	教科専門科目
科目名	表現とこどもの運動(T)	担当講師	石原 正三

対象学年	2 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	

講義方法	講義
使用教科書・使用教材	「表現とこどもの運動」(配本テキスト) 「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)
学習目標	こども達が自分の思いや考えを豊かな表現を通して他者に伝えることができるためには、多くの表現ができる環境設定が大切であることを理解する。その中で年齢や環境に応じた動きや運動遊びと身体表現を通してこども達がどう表現し遊びを工夫し、仲間と話し合うかなどよりよく関わっていくことができるかを発達段階に沿って展開させることを学ぶ。また、こども達が楽しく表現運動することができる安全の確保についても認識を深める。
成績評価の方法と基準	学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する (評価はルーブリック評価を用い行う) 科目の成績評価:科目試験の結果により判定し評価する (評価はルーブリック評価を用いて行う) 1. 授業態度においては、「指示待ちではなく」授業の準備・片付けなど、主体的に学び取り組む姿勢、グループでのリーダーや周りへの配慮ができているか。 2. 小レポートでは課題について丁寧に記述でき、内容とともに自分の考えを述べられているか。 3. 定期試験では、指導者として現場に活かせる運動遊びの知識や技能を習得・理解できているか。
講義回数	学習内容
第1回	表現の理解と関連性 ・「表現」の理解 ・「感性」の理解
第2回	こどもの発達と運動について ・身体・形態・機能・こころの発育発達 ・こどもと運動「運動と人格的な発達」
第3回	運動遊びの基本的な動き ・基本運動(歩・走・跳・投・押・引・転・登) ・運動表現の要素における調整力と運動技能との関連
第4回	身体コントロール能力の向上 ・調整力中心の体つくり運動 ・音・色などの刺激に対応する運動
第5回	身体表現運動の理解 ・身体表現運動のねらい ・実施についての留意点
第6回	表現とこどもの運動における保育者の役割 ・いろいろな動きを体験させる保育者の役割 ・人的環境としての援助の工夫 ・表現運動における集団遊びと発育発達の関係
第7回	発達段階と表現運動の実践(表現運動遊びの実践) ①年齢別発達における表現遊び(表現リズム運動、ごっこ遊び、おはじき等) ②手遊びリズム表現(糸まき、アルプス一万尺、げんこつ山の狸さん、むすんでひらいて、アイアイ等)
第8回	表現運動(運動遊び)における安全指導 ①安全管理について(安全の考え方、物的管理、人的管理、用具管理等)

令和 8 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分		教科専門科目
科目名	こどもの健康と安全(S)			担当講師		大石 一美
対象学年	2 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義 実習					
使用教科書・使用教材	「こどもの保健」(配本テキスト) 保育所における感染症対策ガイドライン(2018年改訂版)/厚生労働省 保育所におけるアレルギー対応ガイドライン(2019年改訂版)/厚生労働省 教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時のためのガイドライン(平成28年3月) 保育所保育指針解説/厚生労働省/フレーベル館/ISBN978-4577814482					
学習目標	・保育における健康および安全の管理について、具体的に理解する。 ・子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。 ・感染症対策について、具体的に理解する。 ・保育における保健的対応について、具体的に理解する。 ・健康および安全管理の実施体制について、具体的に理解する。					
成績評価の方法と基準	①ルーブリック評価を用いて行う。 ・学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により評価する。 ・科目の成績評価:科目試験の結果により判定し評価する。 ②評価は5段階で行う。					
講義回数	学習内容					
第1回	保健的観点を踏まえた保育環境及び援助 ①子どもの健康と保育の環境 ②個別対応と集団全体の健康及び安全管理					
第2回	保育における健康および安全の管理 ①衛生管理 ②事故防止および安全対策 ③危機管理 ④災害への備え					
第3回	子どもの体調不良等に対する適切な対応 ①体調不良が発生した場合の対応 ②緊急を要する状況への対処方法					
第4回	救命手当および救急蘇生法 ①救命手当の基本対応 ②心肺蘇生法 ③気道異物除法					
第5回	感染症の対策 ①感染症の集団発生の予防 ②感染症発生時と罹患後の対応 ③疾病の支援体制					
第6回	保育における保健的対応 ①慢性疾患・アレルギー疾患など、個別的な配慮を 要する子どもへの対応 ②障害のある子どもへの対応					
第7回	健康および安全管理の実施体制 ①職員間の連携・協働と組織的取り組み ②保健活動の計画および評価 ③地域との連携					
第8回	学生自らのリフレクション					

令和 8 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分		教科専門科目
科目名	こども家庭支援論(T)			担当講師		石原 正三
対象学年	2 年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	・「こども家庭支援論」 (配本テキスト) ・「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)					
学習目標	子育て家庭を取り巻く様々な社会的状況について把握し、保育の専門性を活かした子ども家庭支援の現状と課題について理解を深める。子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開を理解する。特別なニーズをもつ子育て家庭への支援方策として関係機関の連携等、各ニーズの特性を捉えながら学習を進める。					
成績評価の方法と基準	①ルーブリック評価を用いて行う。 ・学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により評価する。 ・科目の成績評価:科目試験の結果により判定し評価する。 ②評価は5段階で行う。					
講義回数	学習内容					
第1回	家族・家庭・世帯とは					
第2回	家族と家庭の形態と機能					
第3回	ライフステージ					
第4回	社会環境の変化と現代の家庭					
第5回	現代の家庭と子育てをめぐる問題					
第6回	要保護家庭の問題					
第7回	子育て家庭を支援する法・制度					
第8回	子育て家庭を支援する社会資源					
第9回	新たな子育て支援制度					
第10回	子育て家庭支援の体系					
第11回	保育者による家庭支援の原理					
第12回	保育所における子育て家庭支援					
第13回	地域における子育て家庭支援					
第14回	特別なニーズをもつ子育て家庭支援					
第15回	諸外国の子育て家庭支援					

令和 8　　年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分		教科専門科目
科目名	子育て支援(S)			担当講師		一村 佑子
対象学年	3 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義・実習					
使用教科書・使用教材	「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版（フレーベル館）					
学習目標	子育て支援の必要性と期待される保育所の社会的責任について理解し、保育士の行う子育て支援の多様なニーズや対象に即した支援の内容と方法及び技術を学ぶ。 保育所を利用していない子育て世帯が地域で孤立しないよう保育所、保育士として担う役割について地域支援を基盤に具体的な支援方法を実践例より理解する。					
成績評価の方法と基準	科目の成績評価:スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する (評価はルーブリック評価を用い行う)					
講義回数	学習内容					
第1回	保育の専門性と子育て支援の特性					
第2回	保護者との相互理解と信頼関係の構築(カウンセリングの知見と技術を応用して)					
第3回	子育て家庭のニーズの気づきと多面的な理解　育児不安の要因と背景					
第4回	子育て支援の展開(状況・状態の把握・支援計画と環境構成)					
第5回	子育て支援の活用と自治体・関係機関や専門職との連携協働					
第6回	社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携協働					
第7回	地域の子育て家庭に対する支援					
第8回	特別な配慮を必要とする子どもとその家族に対する支援					

令和 8　　年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分		教職専門科目
科目名	教育原理(T)			担当講師		石原　正三
対象学年	1　年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	「教育原理」(配本テキスト) 「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)					
学習目標	①教育の基本的概念、理念、歴史及び思想について学ぶことにより、どのように教育及び学校が営まれ、変遷してきたかを理解する。 ②現代の学校教育に関する社会的及び制度的な仕組みを学ぶことにより、学校と地域の連携及び学校安全に関する意義や必要性を理解する。					
成績評価の方法と基準	①ルーブリック評価を用いて行う。 ・学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により評価する。 ・科目の成績評価:科目試験の結果により判定し評価する。 ②評価は5段階で行う。					
講義回数	学習内容					
第1回	教育、教育原理の意義・目的・特性とこども家庭福祉等との関連性					
第2回	世界の教育思想①ソクラテス～ルソーの思想・実践					
第3回	世界の教育思想②ヘルバルト～デューイの思想・実践					
第4回	日本の教育思想					
第5回	子どもの発達と教育					
第6回	子どもの権利					
第7回	制度から見る保育所、幼稚園、認定こども園					
第8回	内容から見る保育所、幼稚園、認定こども園					
第9回	世界における教育の歴史的変遷					
第10回	日本における教育の歴史的変遷					
第11回	公教育制度、義務教育制度					
第12回	教師という仕事、教授法					
第13回	教育における今日的課題①学習指導要領の改訂に伴う幼児教育の変化					
第14回	教育における今日的課題②危機・安全管理カリキュラム、アクティブラーニング					
第15回	教育における今日的課題③学校外との連携					

令和 8　　年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分		教職専門科目
科目名	教育心理学(TS)			担当講師		石原正三・豊岡短期大学講師
対象学年	1　年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義　演習					
使用教科書・使用教材	「教育心理学」(配本テキスト) 「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)					
学習目標	①教育と乳幼児期から青年期を中心とした人の発達について心理学的に理解していく。 ②発達に関する代表的な理論を踏まえた上で、教育における発達の意義と理解を土台にして、子どもの主体的な学習を支える学習の仕組みと動機付け、指導方法と実践活動について学ぶ。 ③環境との相互作用により育ちゆく子ども達にとって、重要な集団作りと評価についても取り扱っていく。基礎的な知識を十分に理解した上で、その内容を子どもの育ちを支える教育・保育実践に活かす力を修得していく。					
成績評価の方法と基準	①ルーブリック評価を用いて行う。 ・学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により評価する。 ・科目の成績評価:科目試験の結果により判定し評価する。 ②評価は5段階で行う。					

講義回数	学習内容
第1回	教育心理学を学ぶ意義(教育心理学とは) ①教育心理学における発達、学習、適応、評価と測定 ②教育心理学の四大領域を学ぶ意義
第2回	発達の考え方とその理解(子どもの発達) ①生涯発達心理学の概念 ②各段階における発達的特徴(運動、言語、認知、社会発達)
第3回	学習の仕組み(子どもの学び) ①連合説と認知説 ②様々な学習理論の応用
第4回	主体的な学習を支える「やる気」(動機づけ) ①内発的動機付けと外発的動機付け ②学習性無力感と自己効力感
第5回	集団での学習とその評価(どのように教えるか／評価する―教育評価) ①学習指導の形態 ②評価の仕方とその意義
第6回	動機付けからみる発見学習の仕組み(どのように教えるか) ①発見学習の手続き ②発見学習により動機付けが高まる理由
第7回	教育心理学に基づく保育実践
第8回	発達課題に応じたかかわり ①各段階の発達的特徴②エリクソンの発達課題
第9回	子どもから大人への思考様式の変化 ①ピアジェの認知発達理論②思考発達段階ごとの特徴学びを支える記憶 ①感覚記憶、短期記憶、長期記憶 ②単純記憶から複雑記憶への変化
第10回	学びを支える記憶 ①感覚記憶、短期記憶、長期記憶 ②単純記憶から複雑記憶への変化
第11回	子どもの学びの姿 ①日常生活からみる学習理論②オペラント条件付けを利用した保育実践
第12回	子どものやる気を引き出す指導の在り方 ①指導者の態度(ピグマリオン効果) ②様々な学習形態とその効果
第13回	子どもの遊びの重要性 ①遊びの変化②遊びを通した社会性の発達
第14回	子どもと道徳 ①幼児期に迎える第一次反抗期と自立②道徳の指導方法
第15回	教育心理学を用いた環境づくり

令和　8　　年度　講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科	科目区分	教職専門科目
科目名	発達心理学(T)	担当講師	守田　幸代

対象学年	1　年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	

講義方法	講義
使用教科書・使用教材	・「発達心理学」（配本テキスト） ・「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)（フレーベル館）
学習目標	①発達心理学の基礎的な理論および保育活動に重要な乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について重点的に学び、実際の保育活動や対人支援活動を踏まえながら、発達を捉える視点について理解する。 ②一般心理学についても基礎的な知見を得て、養護・教育に活かせるようになる。 ③発達は生涯を通じて起こるものであることを理解し、生涯発達についての概観的知識を得ることで、保育が小学校以降の発達にも関わることを理解し、保育の意義・重要性を学ぶ。
成績評価の方法と基準	①ルーブリック評価を用いて行う。 ・学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により評価する。 ・科目の成績評価:科目試験の結果により判定し評価する。 ②評価は5段階で行う。

講義回数	学習内容
第1回	発達心理学の定義、意義、発達心理学で学ぶ内容の概要と基礎
第2回	発達はどのように起こるか:遺伝説と環境説、それらの複合説について
第3回	発達はどのように起こるか　発達の一般的傾向(発達の原理)について
第4回	ピアジェの発達心理学:感覚運動期の発達動物行動学による、生理的欲求の充足以外の「絆」
第5回	ピアジェの発達心理学⑵:前操作期の発達
第6回	ピアジェの発達心理学⑶:具体的操作期および形式的操作期の発達
第7回	乳幼児期の発達:表象の発達と、愛着と人間関係の発達、認知発達の特性、学びにかかわる理論
第8回	幼児期から児童期の発達:運動・言葉・情緒・遊びの発達、および自我の発達と、そのあらわれ方
第9回	児童期・青年期の発達:社会性の拡張と、アイデンティティの確立
第10回	個別機能の発達を詳細に捉える:言語の発達
第11回	個別機能の発達を詳細に捉える⑵:人間関係の発達
第12回	成人期の発達:親密性の確立と、現在の社会から見る青年期の課題・人間関係の課題
第13回	壮年期・老年期の発達:人格の完成と、死の受容
第14回	保育に活用できる発達心理学:発達課題、発達段階の理解による保育計画や環境の構成
第15回	これからの発達心理学:ジェンダー観、インクルーシブな保育、新しい「発達課題」を考える

令和　8　　年度　講義計画（シラバス）

学科名	こども未来学科			科目区分		教職専門科目
科目名	こどもの指導法「人間関係」（S）			担当講師		豊岡短期大学講師
対象学年	1　年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館） 「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）					
学習目標	①こどもたちを取り巻く「人間関係」のあり方や「保育所保育指針」と「幼稚園教育要領」と「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「人間関係」のねらいや内容の理解を深める。 ②保育者としてどのようにこどもの人とのかかわりを育てていくのか、保育者としてこどもとどのような関係性を築いていくのか、こども－養育者、こども－保育者、保育者－養育者、さらには保育者－保育者という様々な関係について考察していく。					
成績評価の方法と基準	①ルーブリック評価を用いて行う。 ・学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により評価する。 ・科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。 ②評価は5段階で行う。					
講義回数	学習内容					
第1回	領域「人間関係」 ・ねらいと内容及びその取扱い ・保育者としての役割					
第2回	保育者としての環境作りと評価 ・こどもの人間関係を見つめる目と環境設定 ・保育構想と指導案（模擬保育）					
第3回	こどもの人間関係の育ちと保育者の役割と援助① ・対人意識、自己概念の発達 ・自己理解と他者理解を支える保育者の工夫					
第4回	こどもの人間関係の育ちと保育者の役割と援助② ・個と集団の育ちの姿 ・こどもの心の拠り所である保育者の工夫					
第5回	こどもの人間関係の育ちと保育者の役割と援助③ ・人とのかかわりとこどもの心の揺れ動きを支える保育者の工夫 ・集団におけるこども同士の関わり芽生え、調和を支える保育者の工夫					
第6回	こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助④ ・こどもの自己発揮・自己抑制を支える保育者の工夫 ・こどもの大切な育ちを捉える保育者の視点					
第7回	こどもの人間関係の育ちと保育者の役割と援助⑤ ・こども同士を結び付ける遊びと保育者の役割 ・こども同士を結び付ける遊びの保育計画（情報機器を活用した保育計画を含む指導案、模擬保育）					
第8回	地域の人々との多様なかかわりを導く保育計画及び小学校との交流を導く保育計画（情報機器を活用した保育計画を含む指導案、模擬保育）					

令和 8　　年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分		教職専門科目
科目名	こどもの指導法「言葉」(S)			担当講師		豊岡短期大学講師
対象学年	1　年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)					
学習目標	1.「人としてのあかし」と言われる言葉について、乳幼児期の言葉の発達過程を理解する。 2. 言葉を用いて思考し、人に話そうとする意欲、他人の話を聞く姿勢・態度、小学校の生活に必要な自己表現ができる「言葉」の獲得等について理解する。 3. 言葉遊び(わたべうた・なぞなぞ・しりとり等)、文字体験(カルタ・標識・ごっこ遊び)等の活動を通して言葉に対する感覚、言葉のもつ美しさ、楽しさを認識し、理解する。 4. こどもの豊かな言葉を育むにはどのようにすべきか、物語・絵本・紙芝居等のイマジネーション体験を通して日常的に使用する言葉以外の言葉の獲得のあり方について認識し、理解する。 5. 言葉に問題があり、遅れがある幼児、また外国籍の幼児等について個々に応じた配慮、支援を認識し理解する。					
成績評価の方法と基準	①ルーブリック評価を用いて行う。 ・学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により評価する。 ・科目の成績評価:科目試験の結果により判定し評価する。 ②評価は5段階で行う。					
講義回数	学習内容					
第1回	幼児教育と言葉 ・言葉とは何か・生活と言葉(聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと)、言葉環境としての保育者の言葉のあり方 ・領域「言葉」の位置付けと他領域との関わり					
第2回	乳幼児期の言葉の発達過程と保育者としての評価 ・領域「言葉」指導上の留意点と評価 ・0歳～5歳における言葉の発達、6歳の就学に向けた取り組み					
第3回	言葉を豊かに育む活動(1) ・言葉遊びに関する情報機器及び教材の活用法 ・わらべうた、なぞなぞ、しりとり、ごっこ遊び、劇遊び等、言葉遊びによる指導案作成及び模擬保育					
第4回	言葉を豊かに育む活動(2) ・言葉から文字へ、文字による環境 ・文字体験としてのカルタ・双六・絵カード等の制作(情報機器活用及び教材の活用)及び模擬保育体験					
第5回	保育者と言葉のあり方 ・言葉の遅れや障がいをもつ乳幼児の捉え方と支援 ・外国のこどもとの対応					
第6回	言葉を豊かに育む活動(3) ・言語教材としての絵本の意義 ・デジタル教材の利用と保育現場の実際及び言語教材を用いた指導案の作成					
第7回	言葉を豊かに育む活動(4) ・絵カード・カルタ等を利用した指導法と情報機器の利用について ・お話等の実践による指導案作成及び模擬保育					
第8回	言葉の年間授業計画と幼稚園、保育園、こども園と小学校との連携					

令和 8　　年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科	科目区分	教職専門科目
科目名	こどもの指導法「リズム表現」(S)	担当講師	豊岡短期大学講師

対象学年	1 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位

講義方法	講義 演習
使用教科書・使用教材	「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)
学習目標	①保育内容を理解し、表現遊びを展開するために必要な知識や技術を表現領域から見出し、保育指導法を修得していく。 ②こどもの表現の指導援助者として、保育内で扱う教材について必要な知識も併せて修得する。 ③表現に関する知識や保育技術の修得と、実践を通した感性や人間力の育成を目指す。
成績評価の方法と基準	①ルーブリック評価を用いて行う。 ・学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により評価する。 ・科目の成績評価:科目試験の結果により判定し評価する。 ②評価は5段階で行う。
講義回数	学習内容
第1回	領域「表現」についての基本的な考え方 ①古代から近代における幼児教育の歴史的系譜をもとに「表現」についての洞察 ②幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「表現」の指導にお いて求められる表現の捉え方と評価及び小学校の教科等とのつながりについての理解
第2回	基礎リズム ①歩く、走る、スキップ、ギャロップなどの基礎リズムパターンの理解と指導上の留意点 ②幼児期の身体的・精神的発達をふまえた指導法の理解
第3回	基本動作 ①幼児の心情・認識・思考及び動き等をふまえた基本動作の実践 ②日常生活が表現につながる可能性に気づき、観察や模倣を通して幼児のイメージを豊かにする指導法の実践
第4回	タブレット等の情報機器を用いた多様な振り付けの実践と理解 ①童謡やわらべうたについてタブレット等の情報機器や動作カードを活用した多様な振付の実践 ②幼児の表現したい気持ちを育む指導法の実践
第5回	楽器の製作と活用、製作した楽器を用いての指導案の作成 ①楽器の取り扱いと身近な素材を使ったオリジナル楽器の製作と活用 ②指導案作成の基礎を理解し、オリジナル楽器を使った指導案の作成
第6回	領域「表現」と小学校教科等のつながり ①オノマトペ(擬態語・擬音語・擬声語)の表現方法について ②領域「表現」と小学校教科等とのつながり
第7回	表現する力を育てるための保育者の役割と援助について、模擬保育の実践と振り返り ①絵本のストーリーを取り入れた模擬保育の実践 ②保育構想発展のための相互発表による振り返り
第8回	リズム遊びを用いた模擬保育の実践と振り返り ①幼児が持つ表現への意欲と喜びを育むリズム遊びの創作 ②創作したリズム遊びを取り入れた模擬保育の実践 ③保育構想発展のための相互発表による振り返り

令和　8　　年度　講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分		教職専門科目
科目名	乳幼児保育Ⅰ(T)			担当講師		大石　一美
対象学年	1　年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	「乳幼児保育Ⅰ」(配本テキスト) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)					
学習目標	①乳幼児保育の意義・概念と歴史的変遷及び背景と制度について理解する。 ②保育所、地域型保育等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について学び、知識を得る。 ③3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と保健・衛生・安全危機管理について理解する。 ④乳幼児保育における職員間・保護者や地域の関係機関との連携・協働について理解する。 ⑤乳幼児保育における保育の計画・記録・評価について理解する。					
成績評価の方法と基準	①ルーブリック評価を用いて行う。 ・学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により評価する。 ・科目の成績評価:科目試験の結果により判定し評価する。 ②評価は5段階で行う。					

講義回数	学習内容
第1回	乳幼児保育の意義・概念と歴史的変遷
第2回	乳幼児保育の役割と機能、保育における養護と教育
第3回	乳幼児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題
第4回	保育所における乳幼児保育
第5回	保育所以外の児童福祉施設(乳児院等)
第6回	地域型保育等における乳幼児保育
第7回	3歳未満児の保健・衛生・安全危機管理を考慮した生活と環境
第8回	3歳未満児の発達・発育を踏まえた3歳未満児の遊びと環境
第9回	3歳以上児の保育に移行する時期の保育
第10回	3歳未満児の発達・発育を踏まえた保育者の援助や配慮
第11回	乳幼児保育における保育計画のありかた
第12回	乳幼児保育における保育計画に基づく保育実践・省察・評価
第13回	職員間の連携・協働
第14回	保護者との連携・協働
第15回	自治体や地域の関係機関との連携、子育て支援の実際

令和 8　　年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分		教職専門科目
科目名	保育内容総論(T)			担当講師		濱田　由美子
対象学年	1　年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	「保育内容総論」(配本テキスト) 「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)					
学習目標	①保育所や幼稚園、認定こども園における「保育」の全体的構造について理解する。 ②各領域の保育内容を総合的にとらえる視点から、乳幼児期の発達過程、園での生活や遊び、保育計画、具体的な援助等について保育の流れ理解する。 ③保育実践と結びつけながら学ぶ。					
成績評価の方法と基準	①ルーブリック評価を用いて行う。 ・学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により評価する。 ・科目の成績評価:科目試験の結果により判定し評価する。 ②評価は5段階で行う。					
講義回数	学習内容					
第1回	保育の全体的構造 ①育みたい資質・能力の三つの柱と幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿 ②領域の考え方と乳幼児保育の領域					
第2回	保育内容の歴史的変遷 ①変遷にみる特徴 ②変遷にみる課題					
第3回	養護と教育の一体的展開 ①養護的なかかわりと教育的なかかわり					
第4回	乳幼児期にふさわしい生活と保育内容 ①乳幼児にとって園行事の意味と在り方 ②保幼小の円滑な連携					
第5回	生きる力の基礎をはぐくむ保育内容の展開 ①環境を通して行う保育 ②遊びによる総合的な保育					
第6回	全体的な計画の作成と指導計画の作成 ①全体的な計画の作成 ②指導計画の作成手順と配慮					
第7回	保育の評価と保育の記録 ①幼児理解に基づく評価 ②観察記録を書く意味と幼児理解					
第8回	保育内容の現代的課題について ①子育て支援 ②文化共生保育					

令和　8　　年度　講義計画(シラバス)

西日本教育医療専門学校

学科名	こども未来学科			科目区分		教職専門科目
科目名	こどもの理解と援助(S)			担当講師		宮崎　哲博
対象学年	1　年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)					
学習目標	1. 保育実践において、実態に応じた子ども一人ひとりの心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。 2. 保育の実践における、一人一人の子どもの発達や学びを把握することの重要性を理解する。 3. 子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。 4. 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。 5. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。					
成績評価の方法と基準	①ルーブリック評価を用いて行う。 ・学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により評価する。 ・科目の成績評価:科目試験の結果により判定し評価する。 ②評価は5段階で行う。					
講義回数	学習内容					
第1回	子どもの実態に応じた発達や学びの把握① (1) 保育における子どもの理解の意義 (2) 子どもの理解に基づく養護及び教育の一体的展開					
第2回	子どもの実態に応じた発達や学びの把握② (1) 子どもに対する共感的理解と子どもとの関わり					
第3回	子どもを理解する視点① (1) 子どもの生活や遊び (2) 保育の人的環境としての保育者と子どもの発達 (3) 子ども相互の関わりと関係づくり (4) 集団における経験と育ち					
第4回	子どもを理解する視点② (1) 葛藤やつまずき (2) 保育の環境の理解と構成 (3) 環境の変化や移行					
第5回	子どもを理解する方法① (1) 観察 (2) 記録					
第6回	子どもを理解する方法② (1) 省察・評価 (2) 職員間の対話 (3) 保護者との情報の共有					
第7回	子どもの理解に基づく発達援助① (1) 発達の課題に応じた援助と関わり (2) 特別な配慮を要する子どもの理解と援助					
第8回	子どもの理解に基づく発達援助② (1) 発達の連続性と就学への支援 (2) 幼保小接続期におけるさまざまな連携					

令和　8 年度　講義計画（シラバス）

学科名	こども未来学科			科目区分		教職専門科目
科目名	教育課程論（T）			担当講師		村木　裕二
対象学年	2　年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	「教育課程論」（配本テキスト） 「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館） 「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）					
学習目標	1．教育課程・全体的な計画の法的根拠について理解する。 2．幼稚園教育要領や保育所保育指針等の変遷について学び、教育の課題や背景について理解する。 3．幼児教育と小学校教育との違いを、カリキュラムの構成原理、ねらい・目標、教育内容・方法、学びの形態など の視点から理解する。 4．子どもの発達や学びをつないでいく幼児教育と小学校教育の接続について理解する。 5．教育課程・全体的な計画を編成するにあたって求められる、保育者としての現代的課題を切り開いていく力量を育む。 を育む。					
成績評価の方法と基準	①ルーブリック評価を用いて行う。 ・学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により評価する。 ・科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。 ②評価は5段階で行う。					

講義回数	学習内容
第1回	教育課程・全体的な計画（保育課程）編成の基本的な考え方、意義と必要性
第2回	カリキュラムの基礎理論
第3回	日本における教育課程・保育課程の変遷
第4回	時代の変化に対応した教育課程・全体的な計画（保育課程）の在り方、編成と評価
第5回	教育課程・全体的な計画（保育課程）に関わる法規の理解
第6回	学習指導要領の変遷とその特色
第7回	園生活と長期・短期の指導計画
第8回	教育課程・全体的な計画（保育課程）編成の実際
第9回	保育の基本と実践（記録及び省察による教育・保育の質向上）
第10回	学びをつなぐ幼・保・小連携カリキュラム
第11回	明治・大正・昭和前期、後期の保育の歴史
第12回	危機管理保育のカリキュラムの意義と必要性
第13回	幼稚園教育要領、保育所保育指針の変遷
第14回	教育課程をめぐる諸問題
第15回	信頼される園づくりと地域子育て支援

令和 8 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分		教職専門科目
科目名	教職論(T)			担当講師		村木 裕二
対象学年	2 年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	「教職論」(配本テキスト) 「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)					
学習目標	①現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職(保育)の意義、教職者(保育者)の役割・資質能力・職務内容等についての理解を深める。 ②教職(保育)は、子どもの成長発達に指導、援助する仕事であることを理解し、教育(保育)への課題に関心を持ち、授業に関わる専門性について学ぶ。 ③教育(保育)のビジョンを明確にすることを主要なテーマにし、自分が目指す教職者像の確立を図る。					
成績評価の方法と基準	①ルーブリック評価を用いて行う。 ・学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により評価する。 ・科目の成績評価:科目試験の結果により判定し評価する。 ②評価は5段階で行う。					
講義回数	学習内容					
第1回	教職(保育)の意義・定義・教職(保育)者とは何か					
第2回	教職(保育)者に求められる資質・能力					
第3回	教員(保育者)養成の歴史					
第4回	教職(保育)者の資質と役割					
第5回	指導計画(保育のねらい・内容)					
第6回	教職(保育)者の仕事・義務・研修					
第7回	教職(保育)者の職場環境					
第8回	教職者の制度的な位置付け					
第9回	教職者の任用と服務					
第10回	教育(保育)現場におけるこどもとの関わり(あそび・環境)					
第11回	教育(保育)現場における家庭との連携・支援、地域との連携					
第12回	教職(保育)観の変遷と教員(保育者)の役割					
第13回	職員間の連携、保育園、幼稚園、小学校との連携(接続カリキュラム)					
第14回	今日的な教育課題に対応するために(「チーム学校」等)					
第15回	よい教職者(保育者)になるために(教育実習への心構え)					

令和 8 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分		教職専門科目
科目名	教育方法論(T)			担当講師		濱田 由美子
対象学年	2 年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	「教育方法論」(配本テキスト) 「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)					
学習目標	①教育方法の定義、意義、守備範囲の概念についての基本的知識を習得し、教育目標、教育内容、評価との関係性についての理解を深める。 ②教育(保育)現場における様々な課題を解決する教育(保育)方法とその活用についての理解を深め、保育者として必要な資質を培う。					
成績評価の方法と基準	①ルーブリック評価を用いて行う。 ・学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により評価する。 ・科目の成績評価:科目試験の結果により判定し評価する。 ②評価は5段階で行う。					

講義回数	学習内容
第1回	教育方法の定義・意義と守備範囲
第2回	教育方法の歴史的展開1(西欧の教育方法)
第3回	教育方法の歴史的展開2(近・現代の教育方法)
第4回	教育方法の歴史的展開3(日本の教育方法)
第5回	教育技術の革新と情報機器の活用
第6回	教材・教具の理解と活用
第7回	特色ある授業実践
第8回	教育現場における授業技術
第9回	授業分析と授業評価
第10回	授業展開の構想
第11回	幼児の理解と幼児教育(保育)の方法(生徒指導との関係も踏まえて)
第12回	近代以降の幼児教育(保育)方法
第13回	幼稚園教育要領と幼保連携型認定こども園教育・保育要領
第14回	幼児教育(保育)内容と小学校の教育内容
第15回	教育方法の課題と展望

令和 8 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分		教職専門科目
科目名	こどもの指導法「健康」(S)			担当講師		豊岡短期大学講師
対象学年	2 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)					
学習目標	乳幼児期は、生涯を見据え健康な心身の基礎を作る重要な時期である。子どもの健康を守り育てるためには、実際の保育現場で子どもの発育発達をいかに捉え、いかなる内容について指導し支援することが効果的かを理解する必要がある。本授業では、子どもの個々の健康状態を評価する能力を多領域から養うことを目標とする。					
成績評価の方法と基準	①ルーブリック評価を用いて行う。 ・学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により評価する。 ・科目の成績評価:科目試験の結果により判定し評価する。 ②評価は5段階で行う。					
講義回数	学習内容					
第1回	領域「健康」の意味(保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領のねらいと内容の理解)、保育の意義と児童観 ・こどもの姿を「みる」「みきわめる」そして、「かかわる」ことからの「こども理解」					
第2回	乳幼児の心身の発育発達、幼児期の心の発達、幼児期の身体発達 ・発達過程に応じた保育、全体計画編成の基本					
第3回	子どものこころの健康、こころの発達とストレスのサイン ・子どもの健康と虐待					
第4回	基本的生活習慣の獲得、幼児の生活スタイルの現状と問題点 ・食育に関する指導案を作成し、幼児の健康理解を図る					
第5回	子どもの遊びの発達と健康、幼児の遊びを豊かにするための保育者の役割 ・発達に応じた遊びの指導案作成と模擬保育の振り返りからの理解					
第6回	安全管理と安全教育、交通安全指導、避難訓練 ・情報機器及び教材を活用した幼児の安全理解					
第7回	健康と自然環境、園外保育の活動内容 ・園外保育の指導案作成と模擬保育による留意点の学び、視聴覚教材を利用した自然環境の理解					
第8回	保幼小連携と保育内容「健康」のまとめ					

令和 8 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分		教職専門科目
科目名	こどもの指導法「環境」(S)			担当講師		豊岡短期大学講師
対象学年	2 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)					
学習目標	幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された領域「環境」のねらい及び内容について理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて保育を構想し、具体的な指導ができる。					
成績評価の方法と基準	①ルーブリック評価を用いて行う。 ・学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により評価する。 ・科目の成績評価:科目試験の結果により判定し評価する。 ②評価は5段階で行う。					
講義回数	学習内容					
第1回	幼稚園教育の基本と5領域および各領域の特色、ねらいと内容の理解。					
第2回	幼稚園教育における評価の考え方。領域「環境」のねらいと内容の構成。					
第3回	幼児期の特性や幼児の発達理解と、情報機器及び教材の活用。指導案の作成(幼児の姿、ねらい、内容、環境構成、幼児が経験する内容の展開、指導上の留意点)。					
第4回	小学校の教科等とのつながり。アプローチカリキュラムとスタートカリキュラム。					
第5回	模擬保育とその振り返り、保育を改善する視点。情報機器の活用と指導案の作成。					
第6回	保育構想の重要性と保育構想の向上。					
第7回	幼児が身に付けていく内容と指導上の留意点。保育の構想の重要性。					
第8回	領域「環境」に関わる保育の課題。小学校とのつながり。指導案の作成。					

令和 8 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分		教職専門科目
科目名	こどもの指導法「造形表現」(S)			担当講師		豊岡短期大学講師
対象学年	2 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	「造形表現論」(配本テキスト) 「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)					
学習目標	保育の内容を理解し、乳幼児を含めたこどもの造形の指導援助者として、こどもの発達と保育の中で取り扱う造形教材に必要な知識、さらに製作を通して教材研究と材料・用具の取り扱いや子どもの指導と援助について学習する。					
成績評価の方法と基準	①ルーブリック評価を用いて行う。 ・学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により評価する。 ・科目の成績評価:科目試験の結果により判定し評価する。 ②評価は5段階で行う。					
講義回数	学習内容					
第1回	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における「表現」領域及び小学校「図画工作」の学習指導要領との関連と連携					
第2回	幼児の造形表現の意義とその内容、子どもの発達段階における表現の特徴、造形活動の環境づくり					
第3回	こどもの発達段階における表現の指導・援助(指導案)と評価					
第4回	えがく領域における製作を通して、教材研究と子どもの指導と援助について					
第5回	つくる領域における製作を通して、教材研究と子どもの指導と援助について					
第6回	造形あそび領域における製作を通して、教材研究と子どもの指導と援助について					
第7回	えがく領域、つくる領域、造形あそび領域の実践的な指導法や模擬保育等の学習					
第8回	情報機器を使った造形活動及び教材の活用 まとめ					

令和 8 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分		教職専門科目
科目名	こどもの指導法「言語表現」(S)			担当講師		豊岡短期大学講師
対象学年	2 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)					
学習目標	本授業は、乳幼児期における各発達段階のこどもに相応しい言語表現活動の展開と指導法を学習し、乳幼児期のこどもの言語表現活動を指導することができるような基本的知識と技法を身につけることを目標とする。					
成績評価の方法と基準	①ルーブリック評価を用いて行う。 ・学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により評価する。 ・科目の成績評価:科目試験の結果により判定し評価する。 ②評価は5段階で行う。					
講義回数	学習内容					
第1回	こどもの言語表現指導法と指導案の作成 ・幼稚園教育要領・保育所保育指針における「表現」の内容 ・言語表現の指導法及び指導案の作成					
第2回	児童文化財による乳幼児の言語表現活動 ・言語表現活動の意義と範囲 ・言語表現教材の指導法及び模擬保育の指導法					
第3回	言語表現が豊かになる児童文化財の指導 ・絵本の読み聞かせや紙芝居等の活用と留意点 ・わらべ歌遊びや言葉遊び等の活用と留意点					
第4回	言語表現を育む児童文化財の作成とその指導(1) ・絵本、紙芝居、パネルシアター、ペープサート等の教材の作成と情報機器の活用法 ・絵本、紙芝居、パネルシアター、ペープサート等の教材活用の指導法					
第5回	. 言語表現を育む児童文化財の作成とその指導(2) ・絵本、紙芝居、パネルシアター、ペープサート等の教材と情報機器を活用した指導案の作成 ・絵本、紙芝居、パネルシアター、ペープサート等による模擬保育と評価方法・振り返り					
第6回	言語表現を育む児童文化財の作成とその指導(3) ・わらべ歌、あそび歌、しりとり、伝言ゲーム等の意義及び教材の活用と指導法 ・わらべ歌、あそび歌、しりとり、伝言ゲーム等のAV教材活用と留意点					
第7回	言語表現を育む児童文化財の作成とその指導(4) ・わらべ歌、あそび歌、しりとり、伝言ゲーム等のAV教材を活用した、指導案の作成と評価方法 ・わらべ歌、あそび歌、しりとり、伝言ゲーム等の模擬保育と振り返り					
第8回	年間指導計画への位置づけと指導案の作成、並びに保幼小連携について					

令和 8 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分		教職専門科目
科目名	社会的養護Ⅱ(S)			担当講師		宮崎 哲博
対象学年	1 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	「社会的養護Ⅰ」(配本テキスト) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)					
学習目標	①新しい社会的養育ビジョンを踏まえた社会的養護の基礎的内容について具体的に理解する。 ②社会的養護に関する権利擁護と法律を理解する。 ③家庭養護における里親制度について理解する。 ④施設養護における各種児童福祉施設の概要について理解する。 ⑤社会的養護に関わる各種専門職について理解する。 ⑥社会的養護における被措置児童虐待防止と自立支援について理解する。 ⑦社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。					
成績評価の方法と基準	①ルーブリック評価を用いて行う。 ・学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により評価する。 ・科目の成績評価:科目試験の結果により判定し評価する。 ②評価は5段階で行う。					
講義回数	学習内容					
第1回	現代社会における社会的養護の意義					
第2回	現代社会における社会的養護の歴史的変遷					
第3回	社会的養護の基本					
第4回	社会的養護の制度と実施体系					
第5回	社会的養護の対象・形態					
第6回	社会的養護に関わる専門職					
第7回	社会的養護の現状					
第8回	社会的養護の課題					

令和 8　　年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分		教職専門科目
科目名	こどもの理解と相談支援(T)			担当講師		守田　幸代
対象学年	3　年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	「こどもの理解と相談支援」（配本テキスト） 「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館） 「小学校学習指導要領」及び「小学校学習指導要領解説書」					
学習目標	相談支援の究極的な目的は、こどもの人間形成、人格形成にある幼児、児童、生徒を対象にした現場における相談支援に重点を置き、発達と成長の基礎理論、生活指導、しつけ、学習適応等について学ぶ。 カウンセリングの基本的態度や技法について学び、様々な心理アセスメントの内容・活用について理解を深める。					
成績評価の方法と基準	学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する (評価はルーブリック評価を用い行う) 科目の成績評価:科目試験の結果により判定し評価する (評価はルーブリック評価を用い行う)					
講義回数	学習内容					
第1回	こどもの実態に応じた発達や学びの把握(こどもの理解の意義、養護保育の一体的展開、幼児理解を深める教師の基礎的な態度)					
第2回	相談支援の基本相談支援の基本・カウンセリングの基本(意義・理論)とカウンセリングの基本的な方法(受容的態度と共感、傾聴)					
第3回	こどもを理解する視点①(こどもの生活や遊び、保育の人的環境、こども相互の関わり、集団における経験)					
第4回	こどもを理解する視点②(葛藤やつまずき、保育環境の理解と構成、環境の変化や移行)					
第5回	こどもを理解する方法①(知能検査・発達検査・行動観察法、他)					
第6回	こどもを理解する方法②(観察・記録・省察・評価)					
第7回	こどもを理解する方法③(職員間の情報共有、保護者との情報共有)					
第8回	こどもの自己理解を進める技法こどもの自己表現と自己理解の発達					
第9回	幼児・こども理解とカウンセリング・マインド(実際のカウンセリングと教師の行う相談支援の違いを理解する・教師の行う相談支援の理解を深める)					
第10回	幼稚園・保育園における園児への心理的援助及びその保護者との相談支援					
第11回	小学校における児童への心理的援助及びその保護者との相談支援					
第12回	相談支援の実際①(発達障害、知的障害、自閉・情緒障害、特別な配慮を要するこどもたち)					
第13回	相談支援の実際②(不登園・不登校、いじめ、虐待・非行と小・中学生の心理アセスメント)					
第14回	相談支援と家庭・学校・地域との連携と相談支援(幼・小の連携、親との連携)					
第15回	相談支援の課題と対応(教育相談における校内支援体制、相談支援計画の作成)					

令和　8　　年度　講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分		教職専門科目
科目名	特別支援教育(T)			担当講師		諸隈　淳子
対象学年	3　年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	「特別支援教育」（配本テキスト） 「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館） 「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館） 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所「病気の児童生徒への特別支援教育～病気の子どもの理解のために～」					
学習目標	特別な教育的ニーズのある子どもを含めたすべての子どもが幼稚園・保育所の中でそれぞれの自主性・自発性を発揮し生きる力の基礎を培えるようにするため、特別な教育的ニーズのある子どもの生活等における困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。					
成績評価の方法と基準	学習状況の確認:レポート課題を通して専門知識の理解、獲得及び思考表現を判定し評価する。(評価はルーブリック評価を用い行う) 科目の成績評価:科目試験の結果により判定し評価する(評価はルーブリック評価を用い行う)					
講義回数	学習内容					
第1回	特別な教育的ニーズを持つ子供への教育課程(特別支援教育とは) ①特別な教育的ニーズとは何か②特別支援教育課程と学びの場					
第2回	発達障害や軽度知的障害を持つ子供の特性 ①発達障害や軽度知的障害の心と体の育ち②子供一人ひとりのニーズに合わせた学び					
第3回	視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある子供の特性					
第4回	子供のニーズに合わせた支援 ①教育課程における支援②通常の学級における担任による支援					
第5回	教育チームによる組織的支援 ①個別の指導計画及び個別の教育支援計画②アセスメントに基づく計画と評価					
第6回	特別支援教育コーディネーター ①特別支援教育コーディネーターの役割②外部教育資源との連携と協働					
第7回	保護者・家庭支援と連携 ①保護者・家庭をとりまく問題②保護者・家庭とのつながりの重要性					
第8回	特別な教育的ニーズを考える(現代的な視点から) ①母国語や貧困の問題等による教育的ニーズの理解及び支援					

令和　8　　年度　講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分		教職専門科目
科目名	保育実習Ⅰ(保育所)			担当講師		濱田　由美子
対象学年	1～2年	履修時数	80 時間	単位数	2 単位	
講義方法	実習					
使用教科書・使用教材	保育実習指導（豊岡短期大学通信教育部テキスト）　・　保育所保育指針解説書 保育実習(保育所）実習簿　・　認定こども園教育要領保育所保育指針解説書					
学習目標	保育実習の意義・目的、児童福祉施設の種類と役割について理解できる。 実習後は、実習の振り返りと自己評価を行い、新たな課題・学習目標が設定できる。					
成績評価の方法と基準	・実習先より:ルーブリック評価(50%)　・実習簿(S・A・B・C・D:5段階評価)(50%)					
講義回数	学習内容(重点項目)					
実習の内容	保育所実習(主に観察実習)を通して、保育所とは何か、その機能と現状を捉える。					
	実際に子どもたちと触れ合うことにより乳幼児の発達段階等を捉える。					
	毎日の記録を実習簿に記入することを通して、記録の重要性に気付き実習日誌の書き方を学ぶ。					
	保育技術の利用　絵本の読み方・手遊びの仕方・ピアノ等					
	社会人のマナー　ほうれんそう(報告・連絡・相談)の重要性					
	保育所の職場構成と連携					
	プライバシーの保護と守秘義務					
	保育所の職場構成と連携					
	実習の種類(参観実習・参加実習・責任実習)とは何か					
	緊急時の対応(ケガ・地震・火事等)、事故予防について					

令和　8　　年度　講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分		教職専門科目
科目名	保育実習Ⅰ(施設)			担当講師		石原　正三
対象学年	1～2年	履修時数	80 時間	単位数	2 単位	
講義方法	実習					
使用教科書・使用教材	保育実習指導（豊岡短期大学通信教育部テキスト）　・　保育所保育指針解説書 保育実習(施設) 実習簿					
学習目標	保育実習の意義・目的、児童福祉施設の種類と役割について理解できる。 実習後は、実習の振り返りと自己評価を行い、新たな課題・学習目標が設定できる。					
成績評価の方法と基準	・実習先：ルーブリック評価（50%）　・実習簿（S・A・B・C・D:5段階評価）（50%）					
講義回数	学習内容(重点項目)					
実習の内容	施設実習(主に観察実習)を通して、施設とは何か、その機能と現状を捉える。					
	実際に子どもたちと触れ合うことにより発達段階等を捉える。					
	毎日の記録を実習簿に記入することを通して、記録の重要性に気付き実習日誌の書き方を学ぶ。					
	社会人のマナー　ほうれんそう(報告・連絡・相談)の重要性について学ぶ。					
	施設の職場構成と連携について学ぶ。					
	プライバシーの保護と守秘義務について学ぶ。					
	施設の職場構成と連携について学ぶ。					
	実習の種類(参観実習・参加実習・責任実習)とは何かについて学ぶ。					
	緊急時の対応(ケガ・地震・火事等)、事故予防について学ぶ。					

令和 8　　年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分		教職専門科目
科目名	保育実習指導Ⅰ(TS)			担当講師		山田　裕一・濱田由美子
対象学年	1　年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義　演習					
使用教科書・使用教材	「保育実習指導」(配本テキスト) 「保育所保育指針解説」(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)					
学習目標	1. 保育実習の意義・目的を理解する。保育所・認定こども園・児童福祉施設のそれぞれの意義を知る。 2. 実習の流れと実習の心得を学ぶ。 ①実習の種類(参観実習・参加実習・責任実習)を理解する ②実習の心構え・マナーを学ぶ。報告・連絡・相談(ほうれんそう)の重要性を知る 3. 実習の自己目標・実習課題を学ぶ。 ①自己目標(課題)の設定の仕方を学ぶ ②実習日誌の書き方を学ぶ ③指導計画(指導案)の意味と立て方を学ぶ 4. 事後指導では、実習の振り返りと自己評価を行い、新たな目標や課題を設定する。					
成績評価の方法と基準	①ルーブリック評価を用いて行う。 ・学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により評価する。 ・科目の成績評価:科目試験の結果により判定し評価する。 ②評価は5段階で行う。					

講義回数	学習内容
第1回	保育実習の意義・目的の理解
第2回	保育所保育と施設保育の理解
第3回	子どもの発達と実習の実際
第4回	実習の段階(参観実習・参加実習・責任実習)
第5回	子どもの人権と最善の利益の考慮についての理解
第6回	実習のマナー、報告・連絡・相談(ほうれんそう)の重要性、プライバシーの保護と守秘義務
第7回	実習Ⅰの自己目標(課題)の明確化
第8回	実習簿(オリエンテーション、施設の概要等)の書き方
第9回	保育所の職場構成と連携、緊急時の対応、事故予防
第10回	児童福祉施設の種別・特徴、社会的養護の原理・原則および支援
第11回	実習日誌の書き方、実習のねらいの立て方
第12回	保育指導案の立て方及び実践
第13回	実習における観察・記録及び評価の方法や内容についての理解
第14回	保育技術の利用(絵本の読み方・手遊び等)
第15回	事後学習 実習の総括と自己評価、次の実習に向けて、新たな自己目標(課題)の明確化

令和　8　　年度　講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分		教職専門科目
科目名	保育実習Ⅱ(保育所)(選択)			担当講師		石原　正三
対象学年	2年	履修時数	80 時間	単位数	2 単位	
講義方法	実習					
使用教科書・使用教材	保育実習指導（豊岡短期大学通信教育部テキスト）　・　保育所保育指針解説書 保育実習(保育所）実習簿　・　認定こども園教育要領保育所保育指針解説書					
学習目標	保育実習の意義・目的、児童福祉施設の種類と役割について理解できる。 実習後は、実習の振り返りと自己評価を行い、新たな課題・学習目標が設定できる。					
成績評価の方法と基準	・実習先：ルーブリック評価(50%)　・実習簿(S・A・B・C・D:5段階評価)(50%)					
講義回数	学習内容(重点項目)					
実習の内容	保育所実習(主に観察実習)を通して、保育所とは何か、その機能と現状を捉える。					
	実際に子どもたちと触れ合うことにより乳幼児の発達段階等を捉える。					
	毎日の記録を実習簿に記入することを通して、記録の重要性に気付き実習日誌の書き方を学ぶ。					
	保育技術の利用　絵本の読み方・手遊びの仕方・ピアノ等					
	社会人のマナー　ほうれんそう(報告・連絡・相談)の重要性					
	保育所の職場構成と連携					
	プライバシーの保護と守秘義務					
	保育所の職場構成と連携					
	責任実習について学ぶ。(立案・実施・反省・改善)					
	緊急時の対応(ケガ・地震・火事等)、事故予防について					

令和　8　　年度　講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分		教職専門科目
科目名	保育実習Ⅲ(施設)(選択)			担当講師		石原　正三
対象学年	2年	履修時数	80 時間	単位数	2 単位	
講義方法	実習					
使用教科書・使用教材	保育実習指導（豊岡短期大学通信教育部テキスト）　・　保育所保育指針解説書 保育実習(施設) 実習簿					
学習目標	保育実習の意義・目的、児童福祉施設の種類と役割について理解できる。 実習後は、実習の振り返りと自己評価を行い、新たな課題・学習目標が設定できる。					
成績評価の方法と基準	・実習先：ルーブリック評価(50%)　・実習簿(S・A・B・C・D:5段階評価)(50%)					
講義回数	学習内容(重点項目)					
実習の内容	施設実習(主に観察実習)を通して、施設とは何か、その機能と現状を捉える。					
	実際に子どもたちと触れ合うことにより乳幼児の発達段階等を捉える。					
	毎日の記録を実習簿に記入することを通して、記録の重要性に気付き実習日誌の書き方を学ぶ。					
	保育技術の利用　絵本の読み方・手遊びの仕方・ピアノ等					
	社会人のマナー　ほうれんそう(報告・連絡・相談)の重要性					
	施設の職場構成と連携					
	プライバシーの保護と守秘義務					
	施設の職場構成と連携					
	責任実習について学ぶ。(立案・実施・反省・改善)					
	緊急時の対応(ケガ・地震・火事等)、事故予防について					

令和 8 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分		教職専門科目
科目名	保育実習指導Ⅱ(T)(選択)			担当講師		石原 正三
対象学年	2 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	「保育実習指導」(配本テキスト) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)					
学習目標	1. 保育実習Ⅱの目的は、保育実習Ⅰで学習した保育所における保育の学びをさらに深め、発達援助の技術、生活援助の技術、関係性構築の技術、環境構成の技術、遊びを展開する技術等について専門性と実践力を磨くことにある。 2. 今まで大学で学習した知識・技術をどのように使いながら保育をしていくのかを学び、実践力と専門性を高める。 3. 実習の事後指導を通して実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題を明確にする。					
成績評価の方法と基準	①ルーブリック評価を用いて行う。 ・学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により評価する。 ・科目の成績評価:科目試験の結果により判定し評価する。 ②評価は5段階で行う。					
講義回数	学習内容					
第1回	保育実習Ⅰの実習全般(実習簿を含む)の振り返りと、実習Ⅱの自己目標を設定する					
第2回	保育知識・技術の振り返り(1) 子ども理解、子どもの発達、子どもの心に寄り添うとは、5領域のねらいと現場での視点					
第3回	保育知識・技術の振り返り(2) 子どもの基本的生活習慣の獲得、遊びを展開するための知識等と環境構成の設定					
第4回	保育士の職務内容や職業倫理について具体的な実践に結び付けて説明することができるようにします。					
第5回	保育知識・技術の振り返り(3) 児童文化財の利用や人間関係構築の技術、保育指導案の立案の仕方と実施					
第6回	事後指導における実習Ⅱの総括と評価					
第7回	保育実習Ⅱの自己目標から見出した課題					
第8回	実習中の事例(エピソード)から 心に残る事例からの学び、今後の生か方					

令和 8 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分		教職専門科目
科目名	保育実習指導Ⅲ(T)(選択)			担当講師		石原 正三
対象学年	2 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	「保育実習指導」(配本テキスト) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)					
学習目標	1. 児童福祉施設における保育士の専門性、施設に暮らす子どもや保護者について理解する 2. 児童福祉以外の社会福祉施設(老人福祉・障害者福祉)における保育士の役割等を理解する 3. 施設内の連携、他機関との連携について理解する 4. 保育士の役割・業務理解、職業倫理、守秘義務、プライバシーの保護などを理解する 5. 実習の事後指導を通して実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題を明確にする					
成績評価の方法と基準	①ルーブリック評価を用いて行う。 ・学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により評価する。 ・科目の成績評価:科目試験の結果により判定し評価する。 ②評価は5段階で行う。					
講義回数	学習内容					
第1回	保育実習Ⅰの実習全般(実習簿を含む)の振り返りと、実習Ⅲの自己目標を設定する					
第2回	児童福祉施設の施設種別の理解、実習施設の現状と問題点の振り返り ・施設の現状と問題点、社会的養護の現状					
第3回	実習種別による振り返り ・乳児院・児童福祉施設等への入所理由の理解と子ども支援・親支援の実際 ・障害児・者の障害特徴と支援上の留意点 ・老人関係の施設と老人の福祉					
第4回	. 社会的弱者支援の基本を振り返る ・ノーマライゼーションの意味を理解し、どのような支援を実践しているのか ・人権の保護とエンパワメント(人権侵害とは何か)について知る					
第5回	個別支援計画と他機関との連携の振り返り					
第6回	事後指導における実習Ⅲの総括と評価					
第7回	保育実習Ⅲの自己目標の達成度から見出した課題					
第8回	実習中の事例(エピソード)から ・心に残る事例からの気付きや学び、今後の生か方					

令和 8　　年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分		教職専門科目
科目名	教育実習事前・事後指導(S)			担当講師		豊岡短期大学講師
対象学年	2・3　年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	演習					
使用教科書・使用教材	「教育実習事前・事後指導」（配本テキスト） 「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）					
学習目標	実習に向けて、学習の意義・目的を理解し、保育について知識・技能・態度等を総合的に学ぶ。 実習を終えて、再度、教師の役割と保育の意義を確認する。 実習での学び・成果を確認し、これからの課題や目標を明確にする。					
成績評価の方法と基準	科目の成績評価:スクーリングにおける受講態度や単位認定試験の結果等を総合的に評価する(評価はルーブリック評価を用い行う) ※事前指導スクーリングでは(学習のまとめ)も含めて100点満点で評価し、60点以上で合格すれば、教育実習申込条件を一つ満たします。事後指導スクーリングにおいて、100点満点で評価し、成績評価を行います。					
講義回数	学習内容					
第1回	. 実習の意義と目的 ・教師の役割・幼稚園教育の基本と特質・実習の意義と目的 ・保育者としての倫理(守秘義務職務に専念する義務等)					
第2回	. 教育実習の流れと手続き、その内容 ・実習生としての心構え・手続きの方法の確認・事前相談・打ち合わせ					
第3回	観察・参加・責任実習 ・長期指導計画・短期指導計画・子どもを取り巻く環境(環境構成)・幼児理解と保育					
第4回	教師の援助 ・保護者理解と支援・特別な支援を要する子どもへの対応					
第5回	実践演習 ・手遊び、読み聞かせ					
第6回	指導案作成(1)・指導案とは何か					
第7回	指導案作成(2)・指導案作成の実際					
第8回	実習の総括と評価、課題の明確化 ・幼児理解と学び・保育者の活動からの学び・これからの自分の課題と努力目標					

令和　8　　年度　講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分		教職専門科目
科目名	教育実習			担当講師		守田　幸代
対象学年	3　年	履修時数	160　時間	単位数	4　単位	
講義方法	実習					
使用教科書・使用教材	教育実習事前事後指導テキスト(豊岡短期大学通信教育部配本) 幼稚園教育実習の実習簿・幼稚園教育要領解説書					
学習目標	幼稚園の生活に参加し、乳幼児への理解を深めるとともに、幼稚園の機能と、そこでの保育士の職務について学ぶ					
成績評価の方法と基準	実習における態度や実習簿等を総合的に評価する(評価はルーブリック評価を用い行う)					
講義回数	学習内容					
実習の内容(実習2回)	実習園について理解する。					
	一日の流れを自ら参加しながら具体的に理解する。					
	幼児との関わりと観察を通して、その発達を理解する。					
	幼稚園での教育課程、指導計画の実践を通して理解する。					
	生活や学びの一部を担当し、保育技術を習得する。					
	職員の役割分担とチームワークについて理解する。					
	記録や保護者とのコミュニケーションなどを通して、家庭や地域社会を理解する。					
	こどもの最善の利益を具体化する方法を学ぶ					
	幼稚園教諭としての倫理を具体的に学ぶ。					
	安全及び疾病予防への配慮について理解する。					

令和　8　　年度　講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分		教職専門科目
科目名	保育・教職実践演習(幼稚園)(TS)			担当講師		山口悦子・豊岡短期大学講師
対象学年	3　年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義・演習・講義演習					
使用教科書・使用教材	「保育・教職実践演習」(配本テキスト) 「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)					
学習目標	通信授業で学んだ学習知と教育実習で得られた実践知を統合し、確かな実践的指導力を身に付ける。					
成績評価の方法と基準	【通信授業】学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する (評価はルーブリック評価を用い行う) 科目の成績評価:科目試験の結果により判定し評価する (評価はルーブリック評価を用い行う) 【面接授業】科目の成績評価:スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する (評価はルーブリック評価を用い行う) ※科目試験50%、スクーリング50%の平均により成績評価を行う					

講義回数	学習内容
第1回	【授業】教師・保育士という職業
第2回	【授業】学級経営学級経営
第3回	【授業】子ども理解
第4回	【授業】特別支援教育
第5回	【授業】小学校教育との接続
第6回	【授業】安全で安心な保育
第7回	【授業】幼児教育の将来的展望
第8回	【スクーリング】ガイダンス、教職の意義、研修ということ
第9回	【スクーリング】学級経営における臨床場面での教師の対応Ⅰ(ロールプレイング)
第10回	【スクーリング】保育場面での対応(事例研究)課題のある子ども(幼児)の事例研究
第11回	【スクーリング】集団討論Ⅰ「教育課題の解決への教師としてのアプローチ」
第12回	【スクーリング】「幼保小連携」子どもの生活変化を踏まえた適切な指導の在り方
第13回	【スクーリング】園における危機管理
第14回	【スクーリング】保育計画と模擬保育
第15回	【スクーリング】学習のまとめ・自己の振り返り・今後に向けての課題

令和　8　　年度　講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分		教職専門科目	
科目名	乳幼児保育Ⅱ(S)			担当講師		山田裕一	
対象学年	3　年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位		
講義方法	講義・演習						
使用教科書・使用教材	「乳幼児保育Ⅰ」（配本テキスト） 「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）大橋喜美　子著『新時代の保育双書乳児保育〔第４版〕』みらい2022（ISBN：978-4-86015-579-7）乳幼児の発達と保育研究会著『０・１・２歳児の発達と保育乳幼児の遊びと生活』郁洋舎2022（ISBN：978-910467-07-8）						
学習目標	3歳未満児の発育・発達の過程や特性を理解し、実践的な援助やかかわり方を理解する。 3歳未満児の発達を踏まえながら、子どもの主体性や興味・関心、心身の発達を促す指導案を理解し、映像を通して乳幼児保育の実査を具体的に学び、実践力の育成を図る。 乳幼児の健康・安全危機管理を踏まえた保育の環境づくりと、乳幼児が安心して心地よく過ごせる生活の実際についての知識を深める。 乳幼児保育における様々な連携を理解する。						
成績評価の方法と基準	科目の成績評価:スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する (評価はルーブリック評価を用い行う)						

講義回数	学習内容
第1回	子どもの主体性の尊重と自己の育ち
第2回	個々の子どもに応じた援助、受容的・応答的な関りの実際
第3回	0歳児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際
第4回	1．2歳児の発育・発達を踏まえた生活の援助の実際
第5回	3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際1(手作りおもちゃの考案・制作)
第6回	3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際2(手作りおもちゃの制作・発表・評価)
第7回	乳幼児の保育計画のあり方の理解、集団生活における安全と配慮
第8回	乳幼児保育における具体的な連携・協働

令和 8　　年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分		教職専門科目
科目名	こどもの指導法「音楽表現」(S)			担当講師		豊岡短期大学講師
対象学年	1～3　年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義演習					
使用教科書・使用教材	「こどもの指導法『音楽表現』」（配本テキスト） 「音楽表現論」（配本テキスト） 「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館） 「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館） 領域「表現」子どもと楽しむための音楽表現～のびのびと心と身体を育む～ 柳澤邦子著フレーベル館 （ISBN：9784577813706） 新版実践保育内容シリーズ⑤ 音楽表現三森桂子／小畠エマ編著一藝社（ISBN：9784863591608） 改訂幼児のための音楽教育神原雅之／鈴木恵津子編著教育芸術社（ISBN：9784877884437） 新版和音伴奏による幼児のうた100曲在原章子／菊本哲也／柳田憲一／山内悠子共著全音楽譜出版社（ISBN：9784116200561） 子どものうた村保育の木小川宜子／妹尾美智子／麓陽介共編株式会社ドレミ楽譜出版社（ISBN：978428512622） やさしく弾けるピアノ伴奏保育のうた12か月河本芳子／小泉八重子新星出版社（ISBN：9784405071391） わらべうたあそび木村はるみ著成美堂出版（ISBN：9784415305646） 保育で使える合奏楽譜ベストセレクション佐藤千賀子編著ひかりのくに株式会社（ISBN：9784564609176） これで安心！保育指導案の書き方開仁志編著北大路書房（ISBN：9784762826214）					
学習目標	領域「表現」の「音楽表現」に視点を置き、領域「表現」の全体目標への到達を目指し、より具体的、実践的、対話的名保育実践の方法を習得する。					
成績評価の方法と基準	科目の成績評価:スクーリングにおける受講態度や実技技能評価及び単位認定試験結果を総合的に評価する。(評価はルーブリック評価を用いて行う)					

講義回数	学習内容
第1回	感性と表現に関する領域「表現」の「ねらい」及び「内容」などの理解表現活動を支える伴奏についての基礎知識の習得と実践
第2回	乳幼児の発達過程に応じた音楽表現の理解表現活動における伴奏の方法と実践
第3回	映像視聴などによる身近にある音風景「自然の音」「身の周りの音」への気付きと表現方法サウンドスケープなどの実践と楽器による表現及び伴奏法
第4回	声の仕組み、「歌う」表現活動の理解乳幼児の発達とその表現活動を促す伴奏法
第5回	映像を活用した0、1、2歳児の「声」の発達と表現活動の理解と実践　乳幼児の「声」に合わせた表現活動を育む伴奏法
第6回	映像を活用した3、4、5歳児の「声」の発達と表現活動の理解と実践　乳幼児の「声」に合わせた表現活動を支え引き出す伴奏法
第7回	「わらべうた」や「伝承あそび」などにおける実践 「わらべうた」や「伝承あそび」などに親しむための指導法
第8回	領域「表現」と他の領域とのかかわりの理解と応用　他の領域と関連した生活や行事などをテーマにした曲の理解と弾き歌いの実践
第9回	「音あそび」「楽器遊び」などによる表現活動の理解と実践　乳幼児の「楽器あそび」や器楽合奏などに親しむための指導法
第10回	指導計画に基づいた指導案の作成のポイントと模擬保育の進め方　模擬保育に使用する歌や曲の教材研究と伴奏法の実践
第11回	模擬保育「いろいろな音を集めてあそぼう」の実践と指導案の討議　模擬保育での弾き歌い・伴奏法の実践
第12回	模擬保育「わらべうた・伝承遊びを楽しむ」の実践と指導案の討議　模擬保育でのわらべうた・伝承あそびの弾き歌いと伴奏法の実践
第13回	模擬保育「自然物や身近な素材を活かして楽器あそびをしよう」の実践と指導案の討議　模擬保育での弾き歌い及び楽器あそびの教材研究と伴奏法の実践
第14回	ポートフォリオなどを活用した「音楽表現の可視化」の実践と「学びの振り返り」の理解　保育活動を音楽表現で構成する手法と伴奏法の実践
第15回	小学校1年生、教科「音楽」への接続と学びの連続性についての理解とまとめ

令和　8　　年度　講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分		学校設定科目
科目名	ピアノ実技Ⅰ(T)			担当講師		水黒 博子
対象学年	1　年	履修時数	25 時間	単位数	1 単位	
実務経験	合唱団に所属し、器楽演奏のピアノ伴奏、ボイストレーナーとしての経験から、楽譜の読み方、ピアノ実技と弾き歌いを指導する。					
講義方法	実技					
使用教科書・使用教材	『こどもと音楽表現　』西野洋子　豊岡短期大学通信教育部 『幼児のための音楽教育』改定幼稚園教諭・保育士養成課程					
学習目標	音楽表現に視点を置き、基本的な保育実践の方法を習得する					
成績評価の方法と基準	ピアノ実技と弾き歌い、ソルフェージュ歌唱によるSABCDの5段階評価					
講義回数	学習内容					
第1回	楽譜の読み方　指使いの重要性と臨時記号の意味・譜面上での右手と左手の組み合わせ方について					
第2回	楽譜の読み方　メロディーの繰り返しの読み取り方について					
第3回	バイエル課題曲　全体像のつかみ方・難所の練習方法について					
第4回	ソルフェージュ課題曲　リズムの読み方、音程の取り方、ブレスとメロディーラインについて					
第5回	試験楽曲の強弱付け演奏法のポイントについて					
第6回	試験楽曲を暗譜をして止まらずに演奏するためのテクニック					
第7回	生活のうた「おはようのうた」「お弁当のうた」他					
第8回	こどもの歌「ドレミのうた」「アイアイ、思い出のアルバム」他					

令和　8　　年度　講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分		学校設定科目
科目名	ピアノ実技Ⅱ(T)			担当講師		水黒 博子
対象学年	2　年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
実務経験	合唱団に所属し、器楽演奏のピアノ伴奏、ボイストレーナーとしての経験から、楽譜の読み方、ピアノ実技と弾き歌いを指導する。					
講義方法	実技					
使用教科書・使用教材	『こどもと音楽表現　』西野洋子　豊岡短期大学通信教育部 『幼児のための音楽教育』改定幼稚園教諭・保育士養成課程					
学習目標	音楽表現に視点を置き、より具体的、実践的な保育実践の方法を習得する					
成績評価の方法と基準	ピアノ実技と弾き歌い、ソルフェージュ歌唱によるSABCDの5段階評価					
講義回数	学習内容					
第1回	楽譜の読み方①　指使いの重要性と臨時記号の意味・右手と左手の組み合わせ方について					
第2回	楽譜の読み方②　メロディーの繰り返しの読み取り方について					
第3回	バイエル課題曲1の全体像のつかみ方について「繰り返しの音楽」					
第4回	バイエル課題曲1の難所①の練習方法について「転調の意識づけ」「ハ長調の音階」					
第5回	バイエル課題曲1の難所②の練習方法について「ヘ長調のメロディー音階の弾き方」「左手の規則性」					
第6回	ソルフェージュ課題曲1・2　リズムの読み方、音程の取り方、ブレスとメロディーラインについて					
第7回	バイエル課題曲2の全体像のつかみ方について「繰り返しの音楽」「3拍子の理解」					
第8回	バイエル課題曲2の難所①の練習方法について「右手2の指の動き方」「つなぎ目の右手旋律」					
第9回	バイエル課題曲2の難所の練習方法について「左手の指を独立させてしっかり動かす」					
第10回	試験楽曲の強弱付け演奏法のポイントについて「一定のテンポの重要性」					
第11回	試験楽曲の強弱付け演奏法のポイントについて「ディミヌエンドとリタルダンドの関係」					
第12回	試験楽曲の強弱付け演奏法のポイントについて「表現方法が変わるところ」					
第13回	試験楽曲の強弱付け演奏法のポイントについて「力を抜くところ・一気に弾くところ」					
第14回	試験楽曲の暗譜の仕方について「曲の全体像を細分化して理解する」					
第15回	試験楽曲の暗譜の仕方について「音色は色でイメージする」					

令和　8　　年度　講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分		学校設定科目
科目名	ピアノ実技Ⅲ(T)			担当講師		水黒 博子
対象学年	3年	履修時数	60 時間	単位数	4 単位	
実務経験	合唱団に所属し、器楽演奏のピアノ伴奏、ボイストレーナーとしての経験から、楽譜の読み方、ピアノ実技と弾き歌いを指導する。					
講義方法	実技					
使用教科書・使用教材	『こどもと音楽表現　』西野洋子　豊岡短期大学通信教育部 『幼児のための音楽教育』改定幼稚園教諭・保育士養成課程					
学習目標	音楽表現に視点を置き、より具体的、実践的、対話的な保育実践の方法を習得する					
成績評価の方法と基準	ピアノ実技と弾き歌い、ソルフェージュ歌唱によるSABCDの5段階評価					

講義回数	学習内容
第1回	楽譜の読み方①　指使いの重要性と臨時記号の意味について
第2回	楽譜の読み方②　譜面上での右手と左手の組み合わせ方について
第3回	楽譜の読み方③　メロディーの繰り返しの読み取り方について
第4回	バイエル課題曲1の全体像のつかみ方について「繰り返しの音楽」
第5回	バイエル課題曲1の難所①の練習方法について「転調するところの意識づけ」
第6回	バイエル課題曲1の難所①の練習方法について「ハ長調のメロディー音階の弾き方」
第7回	バイエル課題曲1の難所②の練習方法について「ヘ長調のメロディー音階の弾き方」
第8回	バイエル課題曲1の難所①②の練習方法について「左手の規則性について」
第9回	ソルフェージュ課題曲1　リズムの読み方、音程の取り方、ブレスとメロディーラインについて
第10回	ソルフェージュ課題曲2　リズムの読み方、音程の取り方、ブレスとメロディーラインについて
第11回	バイエル課題曲2の全体像のつかみ方について「繰り返しの音楽」
第12回	バイエル課題曲2の練習方法について「3拍子を理解する」
第13回	バイエル課題曲2の難所①の練習方法について「右手2の指の動き方」
第14回	バイエル課題曲2の難所②の練習方法について「つなぎ目の右手旋律の入り方」
第15回	バイエル課題曲2の難所の練習方法について「左手の指を独立させてしっかり動かす」
第16回	試験楽曲の強弱付け演奏法のポイントについて「一定のテンポの重要性」
第17回	試験楽曲の強弱付け演奏法のポイントについて「ディミヌエンドとリタルダンドの関係」
第18回	試験楽曲の強弱付け演奏法のポイントについて「表現方法が変わるところ」
第19回	試験楽曲の強弱付け演奏法のポイントについて「力を抜くところ・一気に弾くところ」
第20回	試験楽曲の暗譜の仕方について「曲の全体像を細分化して理解する」
第21回	試験楽曲の暗譜の仕方について「音色は色でイメージする」
第22回	試験楽曲の暗譜の仕方について「メロディーの動機の部分を意識する」

第23回	試験楽曲の暗譜の仕方について「変化するきっかけの部分を意識する」
第24回	試験楽曲を暗譜をして止まらずに演奏するためのテクニック「音の流れを感じながらフレーズを切る」
第25回	試験楽曲を暗譜をして止まらずに演奏するためのテクニック「移動場所の目当ては黒鍵盤」
第26回	試験楽曲を暗譜をして止まらずに演奏するテクニック「音切でスムーズな移動が可能となる」
第27回	試験楽曲を暗譜をして止まらずに演奏するテクニック「音楽は常に流れていることを感じる」
第28回	生活のうた『おはようのうた、お弁当のうた、お帰りのうた』他の復習
第29回	生活のうた『おはようのうた、お弁当のうた、お帰りのうた』他の復習（歌詞の確認）
第30回	生活のうた『おはようのうた、お弁当のうた、お帰りのうた』他の復習（暗譜）
第31回	生活のうた『おはようのうた、お弁当のうた、お帰りのうた』他の復習（弾き歌い）
第32回	こどもの歌『ドレミの歌』（歌詞の確認、弾き歌い）
第33回	こどもの歌『アイアイ』（歌詞の確認、弾き歌い）
第34回	こどもの歌『思い出のアルバム』（歌詞の確認、弾き歌い）
第35回	こどもの歌『ドレミの歌、アイアイ、思い出のアルバム』まとめ
第36回	季節の歌『おはながわらった』（歌詞の確認、弾き歌い）
第37回	季節の歌『しゃぼんだま』（歌詞の確認、弾き歌い）
第38回	季節の歌『ひなまつり』（歌詞の確認、弾き歌い）
第39回	季節の歌『おはながわらった、しゃぼんだま、ひなまつり』まとめ
第40回	自由選択曲『あしたははれる、にじ、ジブリ』他(面接試験の楽曲をマスターする）
第41回	自由選択曲『あしたははれる、にじ、ジブリ』他(最初の一音、ワンフレーズで決まる）
第42回	自由選択曲『あしたははれる、にじ、ジブリ』他(演奏家の気持ちの伝え方）
第43回	自由選択曲『あしたははれる、にじ、ジブリ』他（暗譜の重要性・緊張を力に変える方法について）
第44回	自由選択曲『あしたははれる、にじ、ジブリ』他（表現したいものは何かをはっきりさせる）
第45回	自由選択曲演奏発表

令和　8　年度　講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分		学校設定科目
科目名	パソコン実技I(T)			担当講師		木下 幹朗
対象学年	2 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	実技					
使用教科書・使用教材	講師が準備するプリントや資料					
学習目標	パソコンの状態の確認、USBメモリなど各種デバイスの使い方がわかる。 ビジネス文書が作成できる。画像を用いた文書が作成できる。 表計算で簡単な計算ができる。発表用資料を作ることができる。					
成績評価の方法と基準	講義の最後に行う修了試験の成績 期限内に提出する作品の完成度					
講義回数	学習内容					
第1回	文書作成(ビジネス文書作成)					
第2回	文書作成(画像や図形を用いたお知らせ文の作成)					
第3回	文書作成(演習問題作成)					
第4回	表計算(表のレイアウトと入力の練習)					
第5回	表計算(基本関数と四則演算、絶対参照)					
第6回	表計算(演習問題作成)					
第7回	資料作成(見本を参考にした習作)					
第8回	資料作成(発表時の心がまえと実践)、処理技術の総まとめ					

令和　8　年度　講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分		学校設定科目
科目名	パソコン実技 II(T)			担当講師		木下 幹朗
対象学年	3 年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
講義方法	実技					
使用教科書・使用教材	講師が準備するプリントや資料					
学習目標	ビジネス文書が作成できる。画像やオブジェクトを併用した応用文書を作成できる。表計算資料が作成できる。実用的な関数やグラフ作成など応用機能を使用できる。プレゼンテーション資料を作成し、ターゲット層に合わせたデザインを考えられる。					
成績評価の方法と基準	講義の最後に行う修了試験の成績 期限内に提出する作品の完成度					
講義回数	学習内容					
第1回	ビジネス文書作成(基本的なビジネス文書の作成・復習)					
第2回	ビジネス文書作成(応用型の表の作成)					
第3回	ビジネス文書作成(図形を用いた簡易地図の作成)					
第4回	ビジネス文書作成(総合的な文書作成演習1)					
第5回	ビジネス文書作成(総合的な文書作成演習2)					
第6回	表計算作成(表作成、IF関数・関数のネスト)					
第7回	表計算作成(IF・AND・OR関数のネスト)					
第8回	表計算作成(SUMIF・COUNTIF関数)					
第9回	表計算作成(表作成、関数の総復習)					
第10回	資格試験のサンプル問題を用いた総合演習					
第11回	資格試験のサンプル問題を用いた総合演習					
第12回	資格試験のサンプル問題を用いた総合演習					
第13回	プレゼンテーション資料作成(デザインと視認性について)					
第14回	プレゼンテーション資料作成(オブジェクトの作成と適切な配置)					
第15回	パソコン処理技術の総まとめ					

令和　8　　年度　講義計画(シラバス)

学科名	子ども未来学科			科目区分		学校設定科目
科目名	保育造形演習Ⅰ(T)			担当講師		薮田　秀子
対象学年	2　年	履修時数	15　時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義・演習					
使用教科書・使用教材	「こどもと造形表現Ⅰ」「こどもと造形Ⅰ」「絵画制作・造形実技編」「平面図形を楽しもう」「紙と遊ぶ紙で作る」「動くおもちゃ」シリーズ　「おもちゃの作り方１００種」　インターネット等					
学習目標	1　製作経験をする中で、こどもの造形的な遊びを展開するために必要な造形知識を理解し技術を習得することができる。 2　製作活動を通して、素材の色や形、材質等の造形に関する知識をもとに、材料や用具の安全な取扱いを理解することができる。 3　こどもの生活経験と造形活動を結びつけ、目的を持った製作(平面図形・立体図形、遊ぶもの・飾る物)等の保育に必要な実践をし、 活動することができる。					
成績評価の方法と基準	・演習態度　・材料の準備　・想像力及び創造力　・表現力					

講義回数	学習内容
第1回	新聞紙の活用　(ブーメラン製作・遊び)
第2回	紙コップを使って　(カーリングに挑戦・遊び)
第3回	ビニール袋の変身　(製作・鑑賞)
第4回	牛乳パックの活用　(製作・遊び)
第5回	画用紙を使って　(変わり絵を楽しむ)
第6回	蔦でつくる(リース土台作り)
第7回	蔦でつくるリース(飾り作り・鑑賞)
第8回	ペーパーの芯を使って(3月の飾りを作る)

令和　8　　年度　講義計画(シラバス)

学科名	子ども未来学科			科目区分		学校設定科目
科目名	保育造形演習Ⅱ(T)			担当講師		石原　正三
対象学年	3　年	履修時数	45 時間	単位数	3 単位	
講義方法	講義・演習					
使用教科書・使用教材	「こどもと造形表現Ⅰ」「こどもと造形Ⅰ」「絵画制作・造形実技編」「平面図形を楽しもう」「紙と遊ぶ紙で作る」「動くおもちゃ」シリーズ　「おもちゃの作り方１００種」　インターネット等					
学習目標	1　製作経験をする中で、こどもの造形的な遊びを展開するために必要な造形知識を理解し技術を習得することができる。 2　製作活動を通して、素材の色や形、材質等の造形に関する知識をもとに、材料や用具の安全な取扱いを理解することができる。 3　こどもの生活経験と造形活動を結びつけ、目的を持った製作(平面図形・立体図形、遊ぶもの・飾る物)等の保育に必要な実践をし、 活動することができる。					
成績評価の方法と基準	演習態度・材料の準備・想像力及び創造力・表現力					

講義回数	学習内容
第1回	折り紙の基礎　(飾り切り・風車)
第2回	新聞紙を使って　(ボッチャを作って遊ぶ)
第3回	段ボールを使って (風でゴー)
第4回	新聞紙・画用紙で (魚つりゲーム)
第5回	ペットボトルの活用 (楽しい光)
第6回	スライムを作ってみよう
第7回	タコ糸の利用 (パンパンゲーム・旗々あがれ)
第8回	牛乳パックを利用して (動くおもちゃ)
第9回	ちらしで作るこま2種
第10回	厚紙で作るペープサート① (動く仕組み)
第11回	厚紙で作るペープサート② (仕上げ)
第12回	厚紙を使って①(合わせ絵を作ろう)
第13回	厚紙を使って②(合わせ絵を作って遊ぼう)
第14回	絵本を作ろう①(からくりの仕組み)
第15回	絵本を作ろう② (変化する絵)
第16回	竹を使って①(竹あかりに挑戦)
第17回	竹を使って②(竹あかりに挑戦)
第18回	飛び出すカード①(とび出す仕組み)
第19回	飛び出すカード②(メッセージを入れて)
第20回	消しゴムでつくる(白文印)
第21回	消しゴムでつくる(朱文印)
第22回	空きカップを利用して①(くす玉づくり)
第23回	空きカップを利用して②(くす玉づくり)

令和　8　　年度　講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分		学校設定科目
科目名	保育・教職実践特別演習(T)			担当講師		山口悦子・濱田由美子
対象学年	3　年	履修時数	75 時間	単位数	5 単位	
実務経験	保育所での勤務経験があり、専門的知識及び保育実践の指導にあたる。					
講義方法	講義・演習					
使用教科書・使用教材	「保育・教職実践演習」（豊岡短期大学通信教育部配本テキスト） 「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）「保育所保育指針解説書」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）					
学習目標	○授業で学んだ学習知と教育実習で得られた実習遅を統合し確かな実践的指導力を身に付ける。 ・保育における集団編成についての学びを幼稚園教育の理解へと発展させる。 ・科目試験：幼稚園教育に特に必要な学習知を確認してより実践的な教員の養成を図る。 ・授業の学習知を基に実践知を統合し確かな実践的指導力を身に付け教職への意欲を醸成する。					
成績評価の方法と基準	・実践的・専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価をする。 ・出席状況（30%）・授業態度（40%）・科目試験（30%）の結果により判定し総合的に評価する。 （　ルーブリック評価：SABCDの段階により評価する　）					

講義回数	学習内容
第1・2回	教師という職業について実際の事例から学ぶ。
第3・4回	学級経営の実際について現場の話から学ぶ。
第5・6回	特別支援教育の実際について現場の話から学ぶ。
第7・8回	特別支援教育と教師・保育者の役割の実際について現場の話から学ぶ。
第9・10回	保育における集団の編成の効果の実際について現場の話から学ぶ。
第11・12回	人権教育の実際について現場の話から学ぶ。
第13・14回	幼稚園における園行事の実際について学ぶ。
第15・16回	幼稚園における園行事(PTA行事)について創意工夫の観点から捉える。
第17・18回	幼稚園における園行事について創意工夫の観点から捉える。
第19・20回	幼稚園における安全教育について現場の話に学ぶ。
第21・22回	幼稚園における防災教育について現場の話に学ぶ。
第23・24回	幼稚園における防災教育について現場の話に学ぶ。
第25・26回	幼児教育の将来的展望について現場の話から学ぶ。
第27・28回	幼保小連携の実際について現場の話から学び、実践的に学ぶ。
第29・30回	幼保小連携の実際について現場の話から学び、実践的に捉え考え合う。
第31回	幼稚園と保育所の違い　(一日の流れ　朝の受け入れ視診の重要点　連絡帳の記入方法)
第32回	環境構成　(導線の作り方　コーナー遊びについて)
第33回	記録について(日案・週案・月案・年間)
第34回	安全教育(ヒヤリハット)及び保健衛生(嘔吐処理物)について あそびについて　　食育について
第35回	教材づくり
第36回	模擬演習(実践)
第37回	模擬演習(実践)
第38回	まとめ(評価)

令和　8　　年度　講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分		学校設定科目
科目名	教育実習指導(T)			担当講師		守田　幸代
対象学年	3　年	履修時数	45 時間	単位数	3 単位	
実務経験	幼稚園での勤務経験があり、実践演習及び指導案作成などの指導にあたる。					
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	教育実習事前・事後指導（豊岡短期大学通信教育部テキスト）・幼稚園教育要領解説書、幼稚園教育実習実習簿、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書					
学習目標	教育実習の意義と目的、実習生としての心構えを学ぶ。また、幼児の発達の特性や発達過程を踏まえ理解や観察の視点・方法、指導案作成等の習得に努めるとともに、目標を持って実習に臨む態度を育成する。また、実習後、総括と自己評価を行い、課題や目標を明確にする。					
成績評価の方法と基準	・事後レポート:ルーブリック評価（100%） ・教育実習の意義と目的を学び、実習生としての心構えができたか。幼児理解や観察の視点・方法・指導案作成等の習得。目標をもち実習に臨む態度育成。実習後の自己評価から課題・目標を明確にできたか。					
講義回数	学習内容					
第1～5回	実習の意義と目的(幼稚園教育の特質・実習の意義と目的・保育者としての倫理・実習生としての心構え)について学ぶ。					
第6・7回	教育実習の流れと手続きについて理解する。					
第8・9回	事前面談(相談)、観察・参加・責任実習(長期短期指導計画・環境構成・幼児理解と保育)について理解する。　関係書類を作成する。					
第10回	実習先との事前打ち合わせを実施する。					
第11回	教師の援助(保護者理解と支援・特別な支援を要する子どもへの対応)について学ぶ。					
第12回	実践演習(手遊び・読み聞かせ・紙芝居等)をする。					
第13回	指導案作成(1)(指導案とは何か)					
第14・15回	指導案作成(2)(指導案作成の実際)					
第16回	幼稚園教育実習のおみやげづくりをする。					
第17・18回	幼稚園教育実習における実習簿を整理する。					
第19回	実習の総括と評価活動を行い課題の明確化(幼児理解と学び・保育者の活動からの学び)を図る。					
第20回	実習先にお礼状を作成し送付する。					
第21～23回	幼稚園教育実習におけるまとめをする。					

令和　8　　年度　講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分		学校設定科目
科目名	就職対策(T)			担当講師		守田　幸代
対象学年	3　年	履修時数	45 時間	単位数	3 単位	
講義方法	講義・演習					
使用教科書・使用教材	・履歴書　・履歴書作成資料　・資料プリント　・各種パンフレット ・求人票ファイル　・保育士登録のしおり　・免許申請書類					
学習目標	保育士国家資格取得に向けて、必要な書類を作成することができる。 幼稚園免許取得に向けて、必要な書類を作成することができる。 自分の進路希望を明確にし、実現に向けて積極的に取り組むことが出来る。					
成績評価の方法と基準	・保育士国家資格手得　・幼稚園免許取得　・社会福祉主事任用資格取得 ・自主実習体験　・採用試験を受験し内定等進路決定					

講義回数	学習内容
第1回	実習等本学での学びを振り返り、進路(就職)について、具体的展望を持つ。(面談)
第2回	履歴書作成について、学ぶ。(面談)
第3回	採用試験における面談等の講話を聞き、練習をする。(面談)
第4回	採用試験における面談等の練習をする。(面談)
第5回	保育士登録の関係書類を作成する。(1)
第6回	保育士登録の関係書類を作成する。(2)
第7回	保育士登録の関係書類を作成する。(3)
第8回	幼稚園免許申請の書類を作成する。(1)
第9回	幼稚園免許申請の書類を作成する。(2)
第10回	幼稚園免許申請の書類を作成する。(3)
第11回	交流会の計画(1)
第12回	交流会の計画(2)
第13回	卒業に向けた必要書類作成をする。
第14回	卒業に向けた必要書類作成をする。就職に向けて必要な実技練習をする。
第15回	3年間の学生生活を振り返るとともに就職に向けての意欲を高める。
第16～23回	交流会計画(3)